

平成29年度決算に係る

定期監査調書

平成30年7月

園芸試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	1頁
	(2) 監査意見	1頁
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	1頁
5	役付職員の調べ	1頁
6	主な事業に関する調べ	2頁
7	収入証紙取扱額調べ	5頁
8	収入事務処理状況調べ	5頁
	(1) 分担金及び負担金	5頁
	(2) 使用料	5頁
	(3) 手数料	5頁
	(4) 財産収入	5頁
	(5) 諸収入	6頁
	(6) 現金の取扱状況	6頁
9	収入未済額調べ	7頁
10	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	7頁
11	不納欠損額調べ	7頁
12	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	7頁
	(1) 負担金	7頁
	(2) 補助金	7頁
	(3) 交付金	7頁
	(4) 委託料	8頁
13	工事請負費調べ	9頁
14	財産に関する調べ	10頁
	(1) 公有財産	10頁
	(2) 金券類の受払状況	12頁
15	財産の貸付及び使用許可調べ	13頁
	(1) 土地及び建物	13頁
	(2) 物品	14頁
16	借受不動産明細調べ	14頁
17	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	15頁
	(1) 職員住宅	15頁
	(2) 職員駐車場	15頁
18	寄附物件の受納状況調べ	15頁
19	備品の処分状況調べ	16頁
20	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	17頁
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	17頁
	(2) 物品の照合	17頁
21	事業別予算執行状況調べ	18頁
22	農業機械の管理状況	18頁
23	生産物(品)に関する調べ	20頁
24	試験研究調査事業別実施状況調べ	22頁
○	意見、要望等	43頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況
該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
園芸試験場	総務担当	会計事務及び庶務に関すること
	果樹研究室	果樹の育種及び栽培に関すること。
	野菜研究室	野菜の育種及び栽培に関すること。
	花き研究室	花きの育種及び栽培に関すること。
	環境研究室	果樹・野菜・花きの病害虫に関すること。
	砂丘地農業研究センター	ラッキョウ・ブドウ・ナガイモの栽培技術改善に関すること。
	弓浜砂丘地分場	白ネギ等特産野菜の品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	河原試験地	カキの品種選定と育種及び栽培技術の改善に関すること。
	日南試験地	中山間地の特産野菜や花きの品種選定と栽培技術の改善に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成30年4月1日現在)

区分	種別	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
		当該年度	29.4.1 現在	当該年度	29.4.1 現在	当該年度	29.4.1 現在	当該年度	29.4.1 現在	
定員		1	1	34	33	9	11	44	45	
現員		1	1	34	33	9	11	44	45	育休中1名 病害虫防除所兼務6名
過不足(△)		0	0	1	0	0	0	0	0	
臨時職員		0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員		2	2	0	0	53	53	57	55	農業技術員55名 一般事務 2名

5 役付職員の調べ

(平成30年7月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
場長	吉田 亮	0年	3月	
次長	小林 弘昌	0年	3月	
課長補佐	石坂 正規	1年	3月	
果樹研究室長	池田 隆政	5年	3月	
野菜研究室長	森本 康史	2年	3月	通算4年3月
花き研究室長	岸本 真幸	11年	3月	通算27年2月
環境研究室長	中田 健	0年	3月	通算22年3月 (兼)病害虫防除所 課長補佐
砂丘地農業研究センター所長	北山 淑一	0年	3月	通算7年3月
弓浜砂丘地分場長	中村 博行	6年	3月	
河原試験地長	藤田 俊二	3年	3月	
日南試験地長	龜田 修二	10年	3月	

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
鳥取イチゴの再興に向けた革新的栽培技術の確立	791		150	641
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県の冬季寡日照条件下におけるイチゴ栽培の生産性と品質の向上を図るため、EOD反応を活用した効果的加温技術を確立するとともに、鳥取オリジナル品種「とっておき」(平成28年種苗登録出願)の栽培特性を解析し、現地普及に向けた栽培技術を確立する。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>①日没後の限られた時間帯に、植物が光や温度に敏感に反応する性質(EOD反応)を活用し、効率的(短時間)加温(EOD加温)による燃料消費の削減と、遠赤色(FR)光の照射(EOD光照射)による増収効果について検討した。</p> <p>②「とっておき」の栽培技術確立に向けて摘果の効果、受苗*時期、栽植密度について検討した。 *親株から伸びたランナーについた子苗をポットに受けて増殖すること</p> <p>③「とっておき」の栽培農家が約30戸に拡大した。この栽培農家を集めて、「とっておき」の栽培上の課題を話し合うための「とっておき研究会」を開催した。</p>				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
<p>①「とっておき」は従来品種の栽培方法と異なる点が多いことが明らかとなってきたため、試験結果に基づいて、普及所と連携して栽培農家を訪問し、栽培指導を行った。</p>				
ウ 成果及び効果				
<p>①燃料削減を目的に、外気温が高い時期は15℃、外気温が低い時期は20℃にする変温管理を行った結果、品種「章姫」において、慣行夜温8℃と比べ、同等の収量が得られ、燃料は6%削減できた。</p> <p>②EOD光照射について日没後3時間FR光を照射することで、無照射と比較して収量が増え、一果重も大きくなった。FR光照射による増収効果は、光源からの距離が1mの場合、無照射に対して25%、5mの場合は同様に16%であった。</p> <p>③「とっておき」は摘果によって収量の増加はないものの、L規格以上の割合、1果重、可販率の向上が認められた。受苗時期と定植時期は早いほど出蕾は早かった。栽植密度は狭めることによって収量は高まった。</p> <p>④「とっておき」栽培農家数は前年の23戸から30戸に増加し、栽培面積も拡大した。</p>				
エ 課題				
<p>「とっておき」の栽培農家数、面積ともに拡大しつつあり、今後ブランド化とイチゴ産地の拡大を図るため、この品種の栽培技術を確立する課題を平成30年から34年まで5年計画で行う。</p>				
<p>①「とっておき」の特性解明と栽培技術 ②EOD反応解明と栽培マニュアル ③省力・低コスト育苗法の開発 ④新品種・系統の適応性検定</p>				

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
EOD反応を活用した花壇苗の低コスト安定生産技術の開発	1,508			1,508
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>本県花きの農業産出額の約半分を占める「花壇苗」は、多くが加温や保温の必要な晩秋～早春に出荷される。「花壇苗」は、「切り花」とは異なりコンパクトな草姿が求められることから、切り花栽培とは異なる技術確立が必要である。</p> <p>切り花での成果を基に、EOD*加温やEOD光照射で生育を促進しながら、草姿をコンパクトにする新たな低コスト生育促進法を開発する。</p> <p>*「EOD」は「End of day」の略で、日没後に植物が光や温度に敏感に反応する時間帯を意味する</p>				
(イ) 事業の実施状況				
<p>①花壇苗46品目の EOD光照射に対する反応性を調査した。</p> <p>②花壇苗46品目の EOD加温（保温）に対する反応性を調査した。</p> <p>③カンパニュラなど栽培に時間がかかる宿根草12品目をEOD光照射やEOD加温で栽培し、栽培期間が短縮する品目を検索した。</p>				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
①29年度からの事業開始に当たり、試験に取り上げる品目は普及所や主要な生産者と協議して決定した。				
ウ 成果及び効果				
<p>①花壇苗46品目のうち36品目はEOD光照射で開花が促進したが、草丈が伸びた。</p> <p>ただし、ダイアンサスなど一部の品目にEOD光照射とわい化剤を併用すると、開花が早まるうえ草姿がコンパクトになった。</p> <p>②花壇苗46品目のうちガーベラなど24品目は、EOD加温で開花が促進され、花数が増加した。</p> <p>また、日没時トンネルを密閉して保温性を高めることで、EOD加温と同等に生育や開花が早まる品目が明らかになった。</p> <p>③カンパニュラ、ラベンダーなど宿根草12品目のうち6品目は、EOD光照射とEOD加温を併用することで、慣行栽培に比べて1ヶ月以上開花が早まった。</p> <p>④これらの成果は、花回廊などへ出荷する生産者を中心に報告した。</p>				
エ 課題				
<p>①EOD光照射で開花が早まる花壇苗品目が明らかになったものの、殆どは草丈が伸び過ぎることから、わい化剤の併用などにより、草姿のコンパクト化を図る必要がある。</p> <p>②EOD保温の効果を高める処理法を明らかにする。</p> <p>③経営試算のためデータ集積を行う。</p>				

6 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
弓浜地域に適した特産野菜の高品質生産技術	398			398
鳥取元気プロジェクト	(4) 産業を元気に 元気な農業に向けて農業活力増進プランを実行			
元気づくり総合戦略	1 豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる ～鳥取+ism～ (2) 農林水産業 (2) 農林水産業の活力増進			
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
鳥取県西部の弓浜砂丘地域では、その特有の砂質土壌を活用したニンジン、サツマイモなど特産野菜の栽培が行われている。近年、消費者の「味・おいしさ」へのこだわりが強くなっており、ニーズも多様化している。そこで、これに対応する新たな品種を検索し、その栽培技術を確認する。				
(イ) 事業の実施状況				
①ニンジンの現地での主要品種「ベーター312」の種子供給が停止となり、代替品種の選定試験を行った。8月播き年内どり作型において「愛紅」を選定し、播種時期による収穫適期、適性施肥量についての試験を実施した。				
②サツマイモの良食味人気品種「べにはるか」の増収を目標として施肥量、挿苗時期別の収穫適期について試験を実施した。また、新規注目品種として「シルクスイート」についても同様な試験を実施した。				
イ 平成29年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点				
①ニンジン：JA生産部や普及所と連携して、園芸試験場弓浜砂丘地分場や現地試作圃場を巡回して生育状況を確認するとともに、試作品種の試食を行い、情報を共有した。				
②サツマイモ：JA生産部の出荷打合せなどの会合を園芸試験場弓浜砂丘地分場で開催するように促し、試験圃場での生育や収穫物を実際に見てもらうことで、具体的な検討を行うことができた。				
ウ 成果及び効果				
①ニンジン：JA生産部として次年度から「愛紅」を年内出荷の主要品種として生産出荷していくことが決定された。施肥量については減肥による減収が見られたことから、「ベーター312」と同等の施肥設計で栽培することが申し合わされた。				
②サツマイモ：「べにはるか」は増肥による収量増が認められた。この結果によりJA生産部の栽培暦（施肥設計）が改定され、「べにはるか」用の施肥設計が生産者に示された。				
エ 課題				
①ニンジン：春播き初夏どり作型における代替品種の選定。				
②サツマイモ：生産者自身による育苗技術の確立				

7 収入証紙取扱額調べ 該当なし

8 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(平成30年5月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
行政財産 使用料	行政財産 使用料	電柱敷地等	8	89,730	89,730	0	0	鳥取県行政財産使用料条例	
		職員駐車場	72	72,000	72,000	0	0	"	
	計(節)		80	161,730	161,730	0	0		
目 計			80	161,730	161,730	0	0		
合 計			80	161,730	161,730	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(平成30年5月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
財産貸付収入	財産貸付収入		2	13,623	13,623	0	0	公有財産事務取扱要領	
	計(節)		2	13,623	13,623	0	0		
目 計			2	13,623	13,623	0	0		
生産物売払収入	生産物売払収入		202	33,039,658	33,039,658	0	0	農林水産関係試験研究機関等における生産品事務取扱要領	
	計(節)		202	33,039,658	33,039,658	0	0		
目 計			202	33,039,658	33,039,658	0	0		
合 計			204	33,053,281	33,053,281	0	0		

(5) 諸収入

(平成30年5月31日現在)

(単位:円)

収入科目			件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
目	節	細節							
農業等検定受託事業収入	農業等検定受託事業収入		1	9,195,120	9,195,120	0	0		
		計(節)	1	9,195,120	9,195,120	0	0		
日本種苗協会受託事業収入	日本種苗協会受託事業収入		1	300,000	300,000	0	0		
		計(節)	1	300,000	300,000	0	0		
農業・食品産業機構受託事業収入	農業・食品産業機構受託事業収入		3	3,240,000	3,240,000	0	0		
		計(節)	3	3,240,000	3,240,000	0	0		
雑入	雑入	預金利息	5	24	24	0	0		
		自動販売機電気代、手数料	8	179,749	179,749	0	0		
		工事に伴う電気代	1	3,305	3,305	0	0		
		原稿料	4	61,900	61,900				
		非常勤職員雇用保険料	1	173,025	173,025	0	0		農林水産総務費 4,836円
		ナシ育種研究拠点開設事業に係る歳入金	1	200,000	200,000	0	0		とっとり農業戦略課
			計(節)	20	618,003	618,003	0	0	
	目計	25	13,353,123	13,353,123	0	0			
	合計	25	13,353,123	13,353,123	0	0			

(6) 現金の取扱状況

ア 現金取扱状況

(平成30年5月31日現在)

(単位:円)

収入科目(節)	収入済額(円)	件数(件)	備考
生産物売払収入	2,217,700	2,248	生産品販売代金
合計	2,217,700	2,248	

イ つり銭の状況

(平成30年5月31日現在)

つり銭の有無	有	つり銭の額(円)	20,000
--------	---	----------	--------

9 収入未済額調べ
該当なし

10 未収金回収促進のための取り組み状況調べ
該当なし

11 不納欠損額調べ
該当なし

12 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(平成30年5月31日現在)
(単位:円)

(1)負担金

予算科目(目)	予算令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令名等 (規約、要領等を含む)	備考
(園芸試験場費) 新設以外のもの						1,090,433		
目計						1,090,433		
合計						1,090,433		

(2)補助金
該当なし

(3)交付金
該当なし

(4) 委託料

(平成30年5月31日現在) (単位:円)

予算科目 (目)	国 庫 単 位 の 別	委託料の名称	委託契約の相手方	当初契約			人 年 月 日 (契約保証金 (納付等年月日) 契約形態)	完了 年月日 履 行 検 査 日	支出 年月日	金額	備考
				予定価格	契約 年月日 (契約年月日) 変更契約(最終) (契約年月日) 契約額	契約 期間 (契約年月日) 契約額					
園芸試験場費	単県	鳥取県園芸試験場培養実験関連連理 化学器移設業務	鳥取市南長1-1-13 鳥取科学器械(株)	3,748,000	(H29.11.17) 3,747,600 ()	H29.11.17~ H29.12.8	H29.11.15 (免除) 指	H29.12.8 H29.12.8	精	3,747,600	新規
	単県	鳥取県園芸試験場施設警備業務	鳥取市南長1-1-2 山陰警備保障(株)	1,566,000	(H27.3.30) 1,283,040 ()	H27.4.1~ H30.3.31	H27.3.18 (免除) 指	H30.3.31外 H30.4.2外	精	427,680	H27~H29年度 債務負担行為 年額 427,680円
	単県	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場 施設警備業務	鳥取市南長1-1-2 山陰警備保障(株)	765,000	(H27.3.30) 583,200 ()	H27.4.1~ H30.3.31	H27.3.18 (免除) 随	H30.3.31外 H30.4.2外	精	194,400	H27~H29年度 債務負担行為 年額 194,400円
	単県	鳥取県園芸試験場河原試験地施設 警備業務	鳥取市南長1-1-2 山陰警備保障(株)	525,000	(H27.3.27) 291,600 ()	H27.4.1~ H30.3.31	H27.3.18 (免除) 随	H30.3.31外 H30.4.2外	精	97,200	H27~H29年度 債務負担行為 年額 97,200円
	単県	鳥取県園芸試験場樹木剪定業務委 託	倉吉市和田309 有限会社 辰巳園	487,000	(H29.10.2) 432,000 ()	H29.10.2~ H29.11.20	H29.9.27 (免除) 随	H29.11.6 H29.11.6	精	432,000	年度毎
	単県				()	()					
上記以外、予定 価格が250万円未 満のもの										3,738,462	
目 計										8,637,342	
合 計										8,637,342	

13 工事請負費調べ (平成30年5月31日現在) (単位:円)

予算科目 (目)	国補 単 の別	工事名	当初契約				入札等 年月日 (契約保証金 納付等年月日)	請負人	支出の状況			地 成 年 月 日 査	変更(解除)の 理由・内容	備考	
			(起工年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額	工期	(変更年月日) 設計額			(契約年月日) 契約額	支出区分	年月日				金額
	単 県	園芸試験場花き育種ハウス 改修工事					(株)アークス	精	H30.4.11	1,252,800	H30.3.23				
	単 県														
	単 県														
目計										1,252,800					
合計										1,252,800					

14 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地

(平成30年3月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所在地	前年度末		増減別	本年度異動状況				差引		備考
			面積(m ²)	価額(円)		異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	
行政財産	(本場) 敷地・畑・道路	(北栄町由良宿字上ノソノソ2048外)	204,538.91	181,259,013	増加					204,538.91	181,259,013	
					減少							
	(砂丘地農業研究センター) 敷地・道路	(北栄条町田井字沖浜527外)	9,881.00	不明	増加					9,881.00	不明	
					減少							
	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883外)	34,465.72	不明	増加					34,465.72	不明	
					減少							
(弓浜砂丘地分場) 畑・宅地	(境港市大字中海干拓地15外)	29,018.52	61,040,000	増加					29,018.52	61,040,000		
				減少								
小計	(河原試験地) 敷地・道路	(鳥取市河原町大字佐貫字丸橋527)	279,449.26	—	増加					279,449.26	—	
					減少							
普通財産	(倉吉ほ場) 敷地・畑・道路	(倉吉市大谷茶屋イザ原883-37外)	3,001.32	不明	増加					3,001.32	不明	
小計			3,001.32	—	減少					3,001.32	—	
合計			282,450.58	—						282,450.58	—	

イ 建 物

(平成30年3月31日現在)

行政・普通 財産の区 分	機関又は施設の名称	所 在 地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考			
			面積(m ²)	価額(円)	増減別	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	価額(円)				
行政財産	(本場)	(北栄町由良宿)	5,469.84	416,831,142	増加	H										
	機械格納庫外				減少	H										
	(西園ほ場)	(北栄町西園)	252.00	不明	増加	H										
	管理器材庫外				減少	H										
	(倉吉ほ場)	(倉吉市大谷茶屋)	2,078.49	102,208,799	増加	H										
	本館外				減少	H										
	(弓浜砂丘地分場)	(境港市中海干拓地)	849.47	222,110,000	増加	H										
	本館外				減少	H										
	(河原試験地)	鳥取市河原町佐貫	413.37	28,027,487	増加	H										
	本館外				減少	H										
	(砂丘地農業研究センター)	(北栄町田井)	436.79	65,930,550	増加	H										
	本館外				減少	H										
	(日南試験地)	(日南町阿毘縁)	404.12	41,667,915	増加	H										
	本館外				減少	H										
合計			9,904.08	—									9,904.08	—		

ウ 山林 該当なし

エ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機) 該当なし

オ 物件 該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等) 該当なし

キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成30年3月31日現在)

種 別	前年度末	本年度中		差 引	備 考
		受入額	払出額		
郵便切手及び 郵便はがき	円 162,655	円 98,508	円 137,163	円 124,000	
収入印紙	2,800	0	0	2,800	
合 計	165,455	98,508	137,163	126,800	

イ タクシーチケットの受払状況 該当なし

15 財産の貸付及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地

(平成30年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用料)(円)		貸住氏名	備考	
							単価	本年度の貸付(使用料)			
行政財産	電力供給施設	本場 北栄町由良宿	電柱 2本	H.26.3.5	S.63.10.16	H.26.4.1 ~	19,030	19,030	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株)		
			支柱 2本 支線 7条			H.31.3.31			倉吉市駄経寺町245-6 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎		
	"	"	電柱 6本 支柱 1本 支線 2条	H.25.3.1	S.63以前	H.25.4.1 ~	15,570	15,570	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株)		
			支線 2条	H.29.1.27	H.14.4.18	H.30.3.31	3,460	3,460	倉吉市駄経寺町245-6 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎		
	"	"	電柱 7本 支線 5条	H.29.2.2	H.9.4.1	H.29.4.1 ~	20,760	20,760	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株)		
			支線 1条	H.27.3.5	H.17.8.15	H.34.3.31	1,730	1,730	鳥取支店長 坪井 秀明 倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株)		
	"	"	電柱 1本 電柱 2本	H.25.3.1	H.20.3.31	H.25.4.1 ~	4,960	4,960	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株)		
			電柱 6本 支柱 1本 支線 3条	H.27.3.5	H.3.1.9	H.30.3.31	17,300	17,300	倉吉市駄経寺町245-6 倉吉営業所長 鹿嶋 慎一郎		
	"	"	電柱 3本 支線 1条	H.24.4.1	H.14.4.18	H.24.4.1 ~	6,920	6,920	倉吉市駄経寺町245-6 中国電力(株)		
			自動販売機 1台	H.29.4.1	H.24.4.1	H.29.3.31	679	679	米子市加茂町2丁目51番地 米子営業所長 松屋 親広 鳥取市緑ヶ丘2丁目667-14 (株)戸信 代表取締役 戸信 隆久	H28まで使用許可 H29から貸付契約	
	普通財産	種苗増殖	倉吉ほ場 倉吉市大谷茶屋	3,066㎡	H.29.5.1	H.29.5.1	H.29.5.1 ~	14,103	12,944	東伯郡三朝町本泉371 鳥取中央農業協同組合 三朝神倉大豆生産部長 坂西 勝	
				計					103,353		
	普通財産							0	0		
	計							0	0		
合計								103,353			

イ 建物 該当なし

(2) 物品 該当なし

16 借受不動産明細調べ

区分	種別	借受(使用)目的	所在地	数量又は面積	契約書の有無	契約の状況			借受先		備考
						借期	借受間	借料(円)	住氏	所名	
(河原試験地) 土地	山林・畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字丸橋564	7,608.00	有	S30.12.10 ～	月額・年額 無料	無料	鳥取市		
土地	畑	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字狭間1827-1外	12,588.39	有	H.28.3.22 ～ H.33.3.21	月額・年額 無料	無料	鳥取市		
土地	田	ほ場用地	鳥取市河原町佐貫字岡崎122-2外	3,305.00	有	H.29.4.1 ～ H.30.3.31	月額・年額 26,440	26,440	「個人」		
土地	畑	河原試験地 試験駐車場 用地	鳥取市河原町佐貫字園橋532	451.90	有	H.17.5.1 ～ H.32.3.31	月額・年額 21,691	21,691	「個人」		
(本場) 土地	山林	排水施設用 地	東伯郡北栄町由良宿字上ノノ72040-3外	146.00	有	H.20.4.1 ～ H.30.3.31	月額・年額 3,285	3,285	「個人」		
(日南試験地) 土地	畑・田	日南試験地 用地	日野郡日南町阿毘羅字ヒヤケ田1201外	17,157.61	有	S.57.4.1 ～ H.30.3.31	月額・年額 無料	無料	日南町		
合計				41,256.90				51,416			

17 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1)職員住宅 該当なし

(2)職員駐車場

ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積(m ²)	賃付(使用)料(月額)(円)
行政財産	本場 (東伯郡北栄町由良宿2048)	12.5	1,000
	砂丘地農業研究センター (東伯郡北栄町田井529)	12.5	1,000
	弓浜砂丘地分場 (境港市中海干拓地27)	12.5	1,000
	河原試験地 (鳥取市河原町佐貫527)	12.5	1,000
	日南試験地 (日野郡日南町阿毘緑1203-1)	12.5	1,000
普通財産			

イ 異動状況

(行政財産)

月別	前月末	当月減		当月増		当月末		調定額	減免状況	収入済額	収入未済額
		うち減免		うち減免		うち減免					
4月	人 99	人 1	人 1	人 2	人 2	人 100	人 94	円 6,000	(理由)通勤手段として勤務先への公共交通機関が確保できない 減免率 10/10	6000	0
5月	100					100	94	6,000	"	6000	0
6月	100					100	94	6,000	"	6000	0
7月	100					100	94	6,000	"	6000	0
8月	100					100	94	6,000	"	6000	0
9月	100					100	94	6,000	"	6000	0
10月	100					100	94	6,000	"	6000	0
11月	100					100	94	6,000	"	6000	0
12月	100					100	94	6,000	"	6000	0
1月	100	1	1			99	93	6,000	"	6000	0
2月	100					99	93	6,000	"	6000	0
3月	100					99	93	6,000	"	6000	0
合計								72,000	"	72,000	0

18 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

19 備品の処分状況調べ

(平成30年5月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用 年数	取得価格 円	不用決定 年月日	不用とする 理由	処 分			備 考	
							売却 売却の別	売却方 法・売却 理由	処分 年月日		売却額・ 処分費用 円
低床トラクター	1	S62.7.3	8	2,480,000	H29.10.17	老朽化のため 使用不能	売却	ネット オーク ション	H29.10.19	151,000	
百葉箱(木製)	1	H12.2.29	8	300,000	H29.11.22	老朽化のため 使用不能	売却	腐朽した ため			財務会計システム上 の過年度処理
百葉箱(木製)	1	H19.10.31	8	189,000	H29.11.22	老朽化のため 使用不能	売却	腐朽した ため			財務会計システム上 の過年度処理
広巾バケツ	1	S55.2.26	5	89,000	H29.11.22	老朽化のため 使用不能	売却	新車購入 時に引取	H28.7.14		財務会計システム上 の過年度処理
グレーダー(ア タッチメント)	1	S55.2.26	5	80,000	H29.11.22	老朽化のため 使用不能	売却	新車購入 時に引取	H28.7.14		財務会計システム上 の過年度処理
乗用草刈り機	1	H9.8.14	8	491,400	H29.11.22	老朽化のため 使用不能	売却	修理不能 なため			H30年度以降に現 物処分
カラーレーザープ リンター	1	H24.5.10	5	76,860	H29.11.28	故障し修理費が 高額なため	売却	使用不可 能なため			H30年度以降に現 物処分
カラーレーザープ リンター	1	H23.10.31	5	136,290	H29.11.28	故障し修理費が 高額なため	売却	使用不可 能なため			H30年度以降に現 物処分
カラーレーザープ リンター	1	H14.3.31	5	219,000	H29.12.4	故障し修理費が 高額なため	売却	使用不可 能なため			H30年度以降に現 物処分
温度記録計	1	H12.9.12	8	315,000	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	修理不能 なため			H30年度以降に現 物処分
鳥獣害防止機	1	H10.8.24	5	78,960	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	修理不能 なため			H30年度以降に現 物処分
ランキングスケ ール	1	H9.7.24	5	199,605	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	修理不能 なため			H30年度以降に現 物処分
ハウス暖房機	1	H13.12.4	6	346,819	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	修理不能 なため			H30年度以降に現 物処分
炭酸ガス発生装 置	1	H9.8.5	5	590,100	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	修理不能 なため	H28.12.28		産廃単価契約で 処分、過年度処理
野菜自動移植機	1	H13.4.28	8	320,000	H29.12.4	試験終了し使用 しなくなったため	売却	ネット オーク ション	H29.3.10	320,000	財務会計システム上 の過年度処理
ハウス加湿機	1	H9.1.16	8	522,210	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	新機種導 入時引取	H29.3.23		財務会計システム上 の過年度処理
サンプルスタッ カー	1	H6.4.20	15	211,150	H29.12.4	老朽化のため 使用不能	売却	新機種導 入時引取	H29.3.3		財務会計システム上 の過年度処理
薬用ショーケー ス	1	H14.3.8	5	104,790	H30.3.15	老朽化のため 使用不能	売却	新機種導 入時引取	H30.3.15		
合 計	18			6,750,184						471,000	

20 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ
 (1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(平成30年5月31日現在)

現金、有価証券 又は物品名	数量	金額	亡失、損傷年月日、時	同左場所	同左概要	報告 年月日	会計局の 審査結果
公用車 (鳥取480<4320)	1	円 「リース車両」 (9,936)	平成29年6月12日 午前中(点検時)	園芸試験場 (具体場所不明)	折損は、リース契約会社の車両点検契約に基づいて実施する スケジュール点検時に判明した。 当該車両は、昨年秋にアンテナの曲がりを確認しており、当時は 修理不要と判断していたが、その後、大雪と経時劣化が重なり 折損に至ったと考えられる。	H29.6.14	無
ノートパソコン (H27CA1032)	1	「リースパソコン」 (24,700)	平成29年7月21日 午後12時30分頃	園芸試験場 第1本館	損傷は、キーボードの操作不良 原因は、パソコンにお茶がかからないように湯飲みは袖机の上 に置いていた、お茶の量が少なくなったので片付けようと湯飲み を持って立ち上がろうとしたところ、手が滑り湯飲みが本机の上 に落ち倒れてキーボードに水がかかり故障した。	H29.9.21	無
合計	2	(34,636)					

(2) 物品の照合

照合年月日	現物が確認できなかった物品	現物が確認できなかった物品名	個数
平成29年8月2日 ～ 平成29年9月6日	・有 (無)		

22 農業機械の管理状況

(平成30年5月31日現在)

品名	形及規 式 び 格	取 得 年 月 日	用 途	稼働 日数	燃 料		修理費等 円	左の主な内容 円	備 考
					消 費 量 ℓ	金 額 円			
(本 場)									
動力運搬車	ヤンマー FG-182SD デクスイ	H6.4.20 H22.5.18	生産物運搬	66	ガソリン	31	4,154		
	ES-672	H22.5.16	"	111	ガソリン	95.8	12,837	33,512	アクセルワイヤー修理 ギア修理 5,616 27,896
"	デクスイキャニコム J-80 デクスイ	H26.6.4	"	308	ガソリン	129.5	17,353	0	
"	J-80-DP	H12.5.9	"	125	ガソリン	129.5	17,353	8,100	バッテリー交換 8,100
"	カワシマ RF-4WD-DV	H15.6.18	"	102	ガソリン	110	14,740	49,464	ホイールボスの交換 42,984 クラッチ不良修理 8,694 フロントタイヤボス交換 34,549
	カワシマ ACK182DD-4WDSE	H18.6.14	"	196	ガソリン	58	7,772	0	
	カワシマ RX4WD-A ACK	H28.5.23	"	174	ガソリン	98	13,132	0	
"	カワシマ AC19-4WD	H24.8.9	"	118	ガソリン	77.5	10,385	29,592	ペダルゴム 1,728 ワイヤー、エアエレメント 27,864
トラクター	シバウラ ロークリアランス	S62.7.3	圃場管理		軽油			0	
"	ヤンマー F180	H4.8.20	"	4	軽油	0	0	0	
"	ヤンマー AF-30ML	H6.1.21	"	36	軽油	118.7	15,075	4,320	ロータリー油圧ホース修理 4,320
"	イセキ T6020F-V	H12.3.15	"	5	軽油	24.5	3,112		
"	クボタ SL54	H28.	"	38	軽油	448.7	56,985		
"	ヤンマー 18PS AF218VPVKS4M	H14.6.10	"	108	軽油	282	35,814	25,056	前輪タイヤ交換 25,056
"	ヤンマー 低床 RS-300FKVU	H14.6.10	"	106	軽油	121.1	15,380	93,528	タイヤ交換 60,048 バッテリー交換 33,480
"	ヤンマー26PS EF326XUQKC5	H15.8.8	"		軽油				ドライブシャフト交換 96,444 エアコン点検、ガス補充 11,707
スピードスプレー	昭信 3S-FSC1061	H25.6.11	薬 散	22	軽油	287.9	36,563	0	
"	ヤンマー YAS1000DX	H7.7.27	"	29	軽油	352.8	44,806	103,075	薬槽タンク修理 103,075
"	昭信 3S-FSC615	H15.4.21	"	28	軽油	329	41,783	0	
管 理 機	クボタ(土壌消毒機付) TI-55 NO. 1	H4.9.4	薬剤土壌灌注	2	ガソリン	3	402	0	
"	クボタ TA800-SCJV	H23.8.26	耕耘・畝立	11	ガソリン	7.5	1,005	103,064	ハンドル交換 44,960 ミッション取り替え、ギヤオイル交換 58,104
"	イセキ(高畝成形機付) KP7F6	H14.5.13	耕耘・畝立	13	ガソリン	4	536	10,800	ミッション調整 10,800
草 刈 機	シハウロー列-モ7 SM615B	H3.5.24	草 刈	0	ガソリン	0	0	0	
草刈りバインダー	クボタ RJ55-TK	H17.7.29	草刈結束	0	ガソリン	0	0	0	
草 刈 機	中央工業 AM61A	H6.4.18	"	4	ガソリン	20	2,680	0	
高 所 作 業 車	共立 KCG-3500SH/T	H5.5.17	樹園地刈込	12	ガソリン	30	4,020	5,292	ペダルゴム交換 5,292
"	共立 KCG-3500H	H17.6.9	"	9	ガソリン	25.5	3,417	0	
乗 用 草 刈 機	オーレック RM90V	H9.8.14	"	20	ガソリン	56.5	7,571	0	
"	アグリップ RM-80JD	H11.2.16	"	29	ガソリン	185	24,790	0	
"	アテックス刈馬王				ガソリン				ベルトテンション交換調整 8,478 ベアリング、オイルシール交 8,305
"	R-950HA フジイ	H19.7.4	"	10	ガソリン	214	28,676	16,783	
"	MB1021 X1	H23.6.9	"	14	ガソリン	131	17,554	5,400	エンジン修理 5,400 エンジン修理不調修理 6,480
芝用スライダー	カワシマ LS805D	H14.4.25		25	ガソリン	25	3,350	6,480	
除 雪 機	フドー SS138UH	H15.12.16	除 雪	10	ガソリン	30	4,020		

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃 料		修理費等円	左の主な内容円	備考
					消費量	金額円			
(砂丘地農業研究センター)									
トラクター	ヤンマー EF326XUQKC5	H15.9.29	圃場管理	47	軽油	165	20,955	0	
動力運搬車	テクスイ ELL801	H16.6.8	運搬	57	ガソリン	155	20,770	0	
"	ヤンマー CG-146D	H6.4.20	"	25	ガソリン	10	1,340	0	
耕耘機	ヤンマー YA-70CA	H7.8.31	耕耘	0	軽油	0	0	0	河原試験地へ移行
動力噴霧器	ATC-433M	H20.12.3	薬散	49	ガソリン	41.5	5,561	0	
チップシュレッダ	共立 P-1100C	H17.8.4	枝葉裁断	11	ガソリン	22	2,948	0	
管理機	クボタクローラー式 TA800-SCJV	H19.9.26	根切り 堀上	9	ガソリン	15.5	2,077	0	
(司浜砂丘地分場)									
トラクター	クボタ KL24	H24.9.19	耕耘・畝立 除雪、残渣処理	98	軽油	400	50,800	0	
"	クボタ GB16	H9.10.15	耕耘・畝立	9	軽油	0	0	0	
ネギ定植機	みのる OP2100	H9.10.15	定植	0	ガソリン	0	0	0	
耕耘機	クボタ TG800	H10.3.30	耕耘	0	ガソリン	0	0	0	
管理機	イセキ KC750F	S58.5.20	耕耘・畝立 土壤消毒	0	ガソリン	0	0	0	
ネギ管理機	アグリップ NR505N	H19.6.1	土寄せ	43	ガソリン	39	5,226	139,341	エンジン修理 139,341
"	クボタ FTN7-Y	H26.11.28	土寄せ	73	ガソリン	50	6,700	12,744	ピリン交換 12,744
土壤消毒機	有光 SD-6V	H25.12.16	土壤消毒	12	ガソリン	4	536	0	
動力運搬車	ヤンマー クローラー CG162	H19.6.6	運搬・薬散	77	ガソリン	65.5	8,777	0	
(河原試験地)									
トラクター	クボタ ZL2602	S57.6.11	耕耘	5	軽油	31	3,937	0	
動力運搬車	テクスイ ELL80IMPW	H14.5.20	生産物運搬・ 資材運搬	174	ガソリン	138	18,492	8,640	セルモーター修理 8,640
スピードプレイヤー	丸山 SSA-a601	H10.5.28	薬散	12	軽油	128	16,256	291,177	バンパー板金修理、ブレーキ修理、 エンジン・ファン・動噴部 291,177
動力草刈機	スター ハンマーナイフ HFC7050	H6.9.8	草刈	0	ガソリン	0	0	0	
乗用草刈機	アグリップ RM85B	H12.5.2	"	16	ガソリン	46	6,164	0	
"	アグリップ RM86	H15.5.7	"		ガソリン	0	0	0	H28.5.25処分 平成28年5月 25日廃棄処分
"	フジ MF915X	H24.6.18	"	25	ガソリン	76	10,184	0	
"	オーレック RM951	H28.5.25	"	20	ガソリン	79	10,586	6,854	タイヤチューブ交換 6,854
耕耘機	ヤンマー YA-70CA	H7.8.31	耕耘	3	軽油	3	381	0	砂丘地より移行
(生物工学研究室)									
スピードプレイヤー	昭信 3S 4WD6-T	H1.4.27	薬散	11	軽油	12	1,524	0	
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.6.20	資材運搬	0	ガソリン	0	0	0	
トラクター	ヤンマー EF220VUKS5ME	H16.6.24	耕耘・畝立 除雪	120	軽油	152	19,304	37,714	ロータリー爪の交換 37,714
除雪機	ワドー SMX1392-N	H25.12.13	除雪	0	ガソリン	0	0	0	
(日南試験地)									
トラクター	クボタ A-13	H4.8.7	耕耘・畝立 薬散	2	軽油	19	2,413	0	
"	ヤンマー 21PS AF322	H14.5.31	"	18	軽油	273	34,671	28,814	爪一式 28,814
管理機	クボタ TI-55SKBVI	H3.5.15	耕耘・畝立	6	ガソリン	11	1,474	0	
"	クボタ T-80	H7.9.21	"	3	ガソリン	6	804	0	
"	クボタ FTN-7Y	H22.7.6	溝きり・土寄せ	12	ガソリン	26	3,484	30,563	オイルシール 2,548 爪セット他 28,015
動力三輪車	カワシマ SC1520DBV-SE	H6.7.4	運搬	23	ガソリン	49	6,566	11,080	セルモーター修理 11,080
動力運搬車	カワシマ RF4WD-DV	H15.6.20	資材運搬	11	ガソリン	43	5,762	15,552	タイヤチューブ 15,552 生工研より配置換え
除雪機	KSR8	H3.12.9	除雪	0	ガソリン	0	0	0	H30廃棄予定
除雪機	ワドー SMX1392-N	H25.12.13	除雪	3	ガソリン	20	2,680	0	生工研より配置換え
計					ガソリン	2,291.8	315,878		
					軽油	3,592.7	456,273	1,185,096	

生産部門	品名種類	作付面積 ㎡	生産計画 数量 kg	前年度か らの繰越 kg	生産数量		場内		売却		処分数量		分類	差引	備考	
					生産 購入 kg	計 kg	使用 kg	数量 kg	金額 円	数量 kg	金額 円	数量 kg				金額 円
果樹研究室	二十世紀	7,000	20,000.0	0.0	20,634.5	20,634.5	1,034.7	19,008.7	8,471,195	0	591.1	19,599.8	8,471,195	0.0		
	香水	125	300.0	0.0	207.2	207.2	0.0	154.0	47,662	0	53.2	207.2	47,662	0.0		
	あきづき	400	1,230.3	0.0	1,230.3	1,230.3	294.8	860.0	329,888	0	75.5	935.5	329,888	0.0		
	なつめ	1,300	3,900.0	0.0	4,456.0	4,456.0	1,249.6	3,021.0	1,438,088	0	85.4	3,206.4	1,438,088	0.0		
	王秋	700	2,000.0	0.0	2,531.3	2,531.3	1,326.1	1,082.0	404,044	0	75.2	1,205.2	404,044	0.0		
	夏さやか	1,800	2,000.0	0.0	2,359.5	2,359.5	93.3	2,012.6	120,814	0	253.6	2,266.2	120,814	0.0		
	秋栄	125	300.0	0.0	193.9	193.9	0.0	170.0	71,999	0	23.9	193.9	71,999	0.0		
	新甘泉	2,700	5,400.0	0.0	5,882.2	5,882.2	1,597.0	3,972.0	2,135,591	0	213.2	4,285.2	2,135,591	0.0		
	秋甘泉	1,200	2,400.0	0.0	2,521.5	2,521.5	1,194.5	1,022.0	425,277	0	205.0	1,327.0	425,277	0.0		
	その他ナン	1,980	3,200.0	0.0	3,781.5	3,781.5	1,876.6	1,102.5	1,381,942	0	520.4	1,722.9	1,381,942	0.0		
	リンゴ	400	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	夏さやか、瑞鳥、瑞秋 他	
	ウメ	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	H27移植の為、果実がならない	
	かんきつ類	1,500	200.0	0.0	25.2	25.2	0.0	23.0	7,184	0	2.2	25.2	7,184	0.0		
	その他カキ	500	300.0	0.0	497.3	497.3	0.0	352.0	56,466	0	145.3	497.3	56,466	0.0	宗田早生、木秋、新秋	
	瀬太郎	2,000	300.0	0.0	557.8	557.8	165.0	301.0	90,300	0	91.8	392.8	90,300	0.0		
富有	225	200.0	0.0	106.1	106.1	0.0	90.0	13,500	0	16.1	106.1	13,500	0.0			
西条	500	400.0	0.0	418.1	418.1	30.0	301.0	53,520	0	87.1	388.1	53,520	0.0			
小計	22,480.0	41,900.0	0.0	45,402.4	45,402.4	8,861.6	33,471.8	15,047,470	0	2,439.0	36,358.8	15,047,470	0.0			
野菜研究室	スイカ	4,900	23,000.0	0.0	22,969.0	22,969.0	0.0	19,949.5	2,379,382	0	3,419.5	22,969.0	2,379,382	0.0		
	小玉スイカ	190	480.0	0.0	570.0	570.0	0.0	455.0	57,900	0	115.0	570.0	57,900	0.0		
	中玉トマト	20	150.0	0.0	131.4	131.4	9.8	69.9	35,280	0	51.6	121.5	35,280	0.0		
	ミニトマト	540	1,200.0	0.0	1,704.5	1,704.5	11.4	895.2	536,092	0	795.2	1,701.8	536,092	0.0		
	アスパラ	400	400.0	0.0	234.9	234.9	0.0	127.2	134,173	0	107.7	234.9	134,173	0.0		
	イチゴ	600	1,000.0	0.0	1,330.5	1,330.5	0.0	1,174.2	1,215,000	0	156.3	1,330.5	1,215,000	0.0	イチゴ苗含む	
	ブロッコリー	4,520	3,000.0	0.0	1,623.2	1,623.2	0.0	616.5	234,030	0	1,006.7	1,623.2	234,030	0.0		
	ホウレンソウ	375	240.0	0.0	118.0	118.0	0.0	100.8	25,200	0	17.2	118.0	25,200	0.0		
	コマツナ	240	150.0	0.0	100.2	100.2	0.0	92.1	29,168	0	8.1	100.2	29,168	0.0	シュンギク含む	
	チンゲンサイ	240	150.0	0.0	367.0	367.0	0.0	310.8	45,402	0	56.2	367.0	45,402	0.0		
	小計	12,025.0	29,770.0	0.0	29,148.7	29,148.7	21.2	23,391.2	4,691,627	0	5,793.5	29,136.1	4,691,627	0.0		
	花き研究室	ストック	200	2,500.0	0.0	6,703.0	6,703.0	450.0	3,458.0	188,252	0	2,797.0	6,253.0	188,252	0.0	単位:本
		トルコキキョウ	200	2,000.0	0.0	1,584.0	1,584.0	300.0	320.0	16,000	0	964.0	1,284.0	16,000	0.0	単位:本
		ユリ	400	4,000.0	0.0	4,565.0	4,565.0	660.0	2,580.0	154,480	0	1,175.0	3,905.0	154,480	0.0	単位:本
		花壇苗	200	3,000.0	0.0	1,000.0	1,000.0	0.0	0	0	0	1,000.0	0	0	0.0	単位:鉢
小計		1,000.0	11,500.0	0.0	13,852.0	13,852.0	1,410.0	6,358.0	358,732	0	4,936.0	12,442.0	358,732	0.0		
スイカ		1,700	1,000.0	0.0	930.0	930.0	0.0	682.0	117,342	0	248.0	930.0	117,342	0.0		
サトイモ		100	100.0	0.0	151.8	151.8	0.0	114.0	11,400	0	37.8	151.8	11,400	0.0		
スイートコーン		200	150.0	0.0	245.8	245.8	0.0	212.0	42,400	0	33.8	245.8	42,400	0.0		
ミニトマト		500	300.0	0.0	315.7	315.7	0.0	224.0	174,096	0	91.7	315.7	174,096	0.0		
ナガイモ		400	1,000.0	500.0	1,321.0	1,821.0	420.4	522.0	128,088	0	98.6	620.6	128,088	780.0		
ねぼりっ娘		600	1,000.0	318.5	1,065.1	1,363.6	0.0	873.0	514,854	0	17.1	890.1	514,854	493.5		
ナス		3,450	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0.0		
ナス		100	50.0	0.0	25.6	25.6	0.0	17.5	4,800	0	6.1	23.6	4,800	0.0		
ホウレンソウ		500	100.0	0.0	163.9	163.9	0.0	118.0	9,800	0	36.3	154.3	9,800	0.0		
ブロッコリー		1,800	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0.0		
アスパラガス	900	500.0	0.0	389.1	389.1	0.0	286.7	392,203	0	102.4	389.1	392,203	0.0			
サツマイモ	50	100.0	0.0	85.5	85.5	0.0	68.0	6,800	0	17.5	85.5	6,800	0.0			
タマネギ	50	100.0	0.0	203.7	203.7	0.0	200.0	12,120	0	3.7	203.7	12,120	0.0			
チンゲンサイ	30	50.0	0.0	63.5	63.5	0.0	58.8	2,900	0	4.7	63.5	2,900	0.0			
白ネギ	50	100.0	0.0	127.7	127.7	0.0	110.0	11,000	0	17.7	127.7	11,000	0.0			
レタス	30	50.0	0.0	10.7	10.7	0.0	4.4	1,100	0	6.3	10.7	1,100	0.0			
小計	10,460.0	4,800.0	818.5	5,099.1	5,917.6	420.4	3,490.4	1,428,903	0	721.7	4,212.1	1,428,903	0.0	1,273.5		

白ネギ	7,000	10,000.0	0.0	9,830.0	9,830.0	700.0	3,888.0	1,478,460	20.0	0	4,772.00	8,680.0	1,478,460	0.0
サツマイモ	200	1000	400.0	1000	500.0	100.0	0.0	0	100.0	0	300.00	400.0	0	0.0
サトイモ	100	1000	400.0	0	400.0	200.0	0.0	0	0.0	0	200.00	200.0	0	0.0
ニンジン	1,000	7,000.0	0.0	6,450.0	6,450.0	0.0	4,350.0	407,716	0.0	0	2,100.00	6,450.0	407,716	0.0
カボチャ	300	2000	0.0	1500	1500.0	0.0	104.0	5616	0.0	0	48.00	150.0	5616	0.0
小計	8,600.0	17,400.0	800.0	16,530.0	17,330.0	1,000.0	8,342.0	1,891,792	120.0	0.0	7,418.0	15,880.0	1,891,792	0.0
畜有	3,000	3,000.0	0.0	3,141.0	3,141.0	246.00	2,489.0	893,438	0.0	0	406.0	2,895.0	893,438	0.0
西条	3,000	3,000.0	0.0	4,293.0	4,293.0	80.00	3,492.0	917,621	0.0	0.0	721.0	4,213.0	917,621	0.0
河原試験地	1,500	1,500.0	0.0	2,059.0	2,059.0	112.00	936.0	441,552	0.0	0	1,044.0	1,980.0	441,552	0.0
花御所	7,400	2,500	0	7,346	7,346	881.00	5,194	3,572,708	90	0	1,124.3	6,408	3,572,708	0.0
その他のカキ	14,900.0	10,000.0	0.0	16,839.0	16,839.0	1,319.0	12,110.7	5,825,319	90.0	0.0	3,295.3	15,496.0	5,825,319	0.0
小計	1,026	2,750	3,614.0	1,338.00	4,952.0	1,276.00	690.0	83,904	60.0	0	574.0	1,324.0	83,904	2,352.0
ナガイモ	746	2,000	3,298.7	2,107.00	5,405.7	812.00	580.0	121,750	42.0	0	431.0	1,055.0	121,750	3,540.7
砂丘地農業 研究セン ター	2,902	2,000	0.0	2,349.50	2,349.5	446.40	1,385.2	1,338,606	37.4	0	470.8	1,893.4	1,338,606	0.0
ブドウ	1,257	1,200	0.0	1,280.00	1,280.0	610.00	50.0	10,000	50.0	0	570.0	670.0	10,000	0.0
ラッキョウ	5,931.0	7,950.0	6,912.7	7,074.5	13,987.2	3,144.4	2,705.2	1,554,260	189.4	0.0	2,045.8	4,940.4	1,554,260	5,892.7
小計	1,800	6,000.0	0.0	1,697.0	1,697.0	0.0	1,107.0	465,495	0.0	0	590.0	1,697.0	465,495	0.0
白ネギ	100	2,500.0	0.0	1,390.0	1,390.0	0.0	890.0	87,912	0.0	0	500.0	1,390.0	87,912	0.0
トルコギキョウ	840	4,000.0	0.0	7,425.0	7,425.0	24.0	4,960.0	1,678,860	0.0	0	2,467.0	7,427.0	1,678,860	0.0
日南試験地	1,200	840.0	0.0	687.0	687.0	687.0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0
フロッコリー	300	800.0	0.0	640.8	640.8	154.8	35.0	9,288	0.0	0	451.0	486.0	9,288	0.0
その他の野菜	4,240.0	14,140.0	0.0	10,449.8	11,839.8	865.8	6,102.0	2,241,555	0.0	0.0	3,508.0	9,610.0	2,241,555	0.0
小計	79,836.0	137,460.0	8,531.2	130,543.5	139,074.7	15,632.4	89,613.3	33,039,658	856.8	0.0	25,161.4	115,633.4	33,039,658	7,808.9
計														

輝太郎、太秋、早秋、新秋、貴秋他

単位:本

24 試験研究調査事業別実施状況調べ

(平成30年5月31日現在)

事業名	(補助)有機・特別栽培を可能にする病害虫管理体系の構築		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成26年度 ～ 平成29年度		(予算額) 支出済額	(3,150,000円) 3,020,000円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ナシの病害虫管理体系の構築	本場	ほ場40a	突発的なマイナー害虫の発生にも対応可能な、特別栽培に対応したナシの病害虫管理体系を構築する。	(成果) ・ナシの特別栽培体系に対応した暦を作成した。 ・ニセナンサビダニに対する水和硫黄剤の効果は、秋季の落葉期散布、春季の発芽前散布ともに効果が高かった。 ・ニセナンサビダニに対する品種間差において、寄生密度が低いのは'秋麗'、被害程度が低いのは'豊水'、モザイク症の発生が少ないのは'王秋'であった。 ・クワコナカイガラムシ越冬卵に対する休眠期防除薬剤の効果は明らかとなった。 (課題) ・特別栽培体系における黒星病対策の改良。 ・複数年による実証。
ネギの病害虫管理体系の構築	西園ほ場	ほ場4a	特別栽培に対応したネギの病害虫管理体系を構築する。	(成果) ・ネギのコンパニオンプランツは、害虫類の天敵類が多く確認されたが、その抑制効果は判然としなかった。また、抑草効果もみられたものの、その管理維持が困難であった。 ・コンパニオンプランツを用いた管理体系の課題を抽出した。 (課題) ・総合的な管理体系の実証。
ブロッコリーの病害虫管理体系の構築	本場	ほ場18a	有機栽培に対応したブロッコリー病害虫管理体系を構築する。	(成果) ・初夏どりブロッコリーでは、無機銅剤と微生物資材を利用した体系は、慣行防除に比べ花蕾腐敗病の発生が同等～やや少ない発生であった。 ・秋冬どりブロッコリーでは、無機銅剤と微生物資材を利用した体系は、慣行防除に比べて黒すす病の発生量が少なかった。 ・ブロッコリーのコンパニオンプランツとしてムギを用い害虫密度抑制効果を検討した結果、その効果は期待できたが、栽培面に影響する可能性が示唆された。 (課題) ・総合的な管理体系の実証。

(平成30年5月31日現在)

事業名	(委)新農薬適用試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成10年度～		(予算額) 支出済額	(6,237,000円) 6,237,000円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果樹病害虫の防除薬 剤の実用化	本場 河原試験地	ほ場34a	果樹の新規薬剤の防除効果等 を検討し、各果樹の防除暦を編 成する。	(成果) ・ナシの黒斑病、黒星病、ハダニ類、アブラ ムシ類などについて新規薬剤の効果が明ら かとなった。県基準防除暦にはナン3剤、ブ ドウ3剤の新規薬剤を採用した。 (課題) ・農薬の短期暴露評価、再評価制度導入に 対応した農薬適用拡大推進。
野菜・花き病害虫の 防除薬剤の実用化	本場 弓浜砂丘地分場	ほ場62a	野菜、花きの新規薬剤の防除効 果等を検討し、有効薬剤の適用 拡大を図る。	(成果) ・スイカのうどんこ病、ネギのべと病、さび 病、黒腐菌核病、ネギハモグリバエ、ネギア ザミウマ、ネダニ類、ブロッコリーの黒すす 病、ナガイモの炭疽病等に対する新規薬剤 の効果が明らかになった。 (課題) ・本県特産農産物の生産上問題となる病害 虫の更なる農薬適用拡大推進。

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)ナシの気候変動に対する適応技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(2,258,000円) 2,221,087円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
果実品質への影響評価と対応技術の確立	本場	ほ場 50a	温暖化が果実品質へ及ぼす影響を明らかにするとともに気象条件による減収を低減する技術を確認する	(成果) ・主秋のコルク状障害の原因として、過度な細胞肥大や高温時の水ポテンシャルの低下が他品種より大きいことが考えられ、本障害の低減には、細胞分裂促進や高温ストレスを受けにくい管理が重要であることが示唆された。 (課題) ・様々な対策の複合処理による発生低減効果を確認する必要がある
樹体への影響評価と対応技術の確立		ほ場 50a	温暖化が樹体へ及ぼす影響を明らかにするとともに気象条件による減収を低減する技術を確認する	(成果) ・「ゴールド二十世紀」は受粉後の気象条件にかかわらず受精能力の低下が早く進行することから、受粉作業は出来るだけ開花直後から実施した方が良いと考えられた。 (課題) ・凍害が原因と考えられる枝がれ症状の発生や胴がれが多くなる傾向であり、対策技術の確立が必要
地下部への影響評価と対応技術の確立		ほ場 30a	温暖化が地下部(根系)へ及ぼす影響を明らかにするとともに気象条件による悪影響を低減する技術を確認する	(成果) ・現地試験園において元肥を廃止した施肥量削減体系を実施し、処理開始から11年目となったが問題が無いことが確認された。 (課題) ・元肥の有無が凍害の発生に及ぼす影響について明らかにする必要がある

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)鳥取のナン産地再生に向けた画期的栽培技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 28年度		(予算額) 支出済額	(1,504,000円) 1,162,107円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ジョイント仕立ての栽培体系の確立	本場	ほ場 50a	本県育成品種のジョイント栽培技術を確立する。	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイント栽培樹の高接ぎ更新の方法として、主枝高より約50cm低い位置の主幹に接ぎ木を行ったところ、誘引と新梢先端部へのジベレリン処理を8月に行うことで翌年には隣接樹に接ぎ木が可能な長さに新梢を伸ばすことが可能であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全な更新まで継続調査が必要
自家和合性品種の特性を活用した省力栽培体系の確立	本場	ほ場 30a	「新甘泉」・「秋甘泉」混植による受粉作業の省力化の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・混植による自然受粉区の受粉は虫によって行われていることが明らかになった。また、自然受粉区の変形果率を低減するためには摘果時期を遅らせた方が良いが、結実が多い場合は翌年の短果枝花芽数の減少につながる可能性があることが明らかになった <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹齢や花数などによる結実率の差の原因究明。

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)ナシ作り新時代を拓く新品種の特性解明による 高品質果実安定生産技術の確立		担当室別	果樹研究室
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(3,762,000円) 3,245,592円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
新品種の生育特性解明	本場	ほ場 100a	新品種の特性に応じた栽培管理 技術を確立する	(成果) ・「甘太」は白色パラフィン袋を被袋すること で糖度上昇効果があることを明らかにした。 ・「新甘泉」の準高冷地(日南試験地)での 栽培は、平野部(本場)と比べて12日程度 生育が遅れるが、収穫果実の品質は遜色 ないことを明らかにした。 (課題) ・新甘泉の栽培地が拡大しており、「新甘 泉」の準高冷地での栽培について、問題点 を把握する必要がある。
新品種の早期多収、 省力整枝法の確立		ほ場 50a	新品種の特性に応じた整枝法を 確立する。	(成果) ・「新甘泉」のジョイント栽培は水平、V字ジョ イントとも、植栽3年目で慣行の仕立て方よ りも収量、着果量が多く、早期多収性がある ことを明らかにした。 (課題) ・慣行仕立てとジョイント仕立て、さらにV字 ジョイント仕立ての作業性の差について明ら かにする必要がある。
新品種の高品質果実 の安定生産技術の確立		ほ場 30a	品種に適した栽培管理技術を確 立する	(成果) ・「なつひめ」に対するエテホン処理は、環状 剥皮と同等の熟期促進効果があることが明 らになった ・「秋甘泉」への環状剥皮により収穫期が前 進し、9月10日頃からの秋雨前線より前に 収穫でき、裂皮発生前の収穫終了が可能で あった。 (課題) ・「なつひめ」へのエテホン処理による環状 剥皮の代替効果については果実の日持ち 性も含め継続調査が必要である。
新たな販売方法に対 する新品種の適応性 の検討		ほ場 30a	輸出、加工への適性調査を行う	(成果) ・「新興」輸出用穂木取り園を想定した植栽 方法と仕立て方は、植栽2年目では、ポット 栽培のまま植え付けする方法の製品率が 高かった。 (課題) ・製品率、収量が高く、作業効率の良い整枝 方法を検討する必要がある

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)鳥取スイカの生産・消費量拡大を目指す次世代栽培技術		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成27年度 ～ 平成30年度		(予算額) 支出済額	(1,052,000円) 1,041,998円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1. 生産拡大と品質安定のための栽培改善 (H27～H30)	本場	ハウス 12a 露地ほ場 9a	<ul style="list-style-type: none"> ・作りやすく高品質な品種候補の選定。 ・トンネル栽培でつる引き作業を必要としない整枝方法の検討。 ・ハウス栽培における無トンネル栽培の実証。 ・黒皮種なしスイカの台木選定 ・スイカ耐病性台木の適正施肥の検討 	<p>(成果)</p> <p>ハウス栽培、トンネル栽培で9～11品種を比較し、それぞれの作型で有望とみられる数品種を選定し、次年度も継続検討する。つる引き必要としない無つる引き栽培は省力的で収量品質は慣行栽培と同等なので、普及に移す新しい技術として公表する。ハウス不織布べたがけ栽培はトンネルを設置した栽培より生育は2～3日遅れるが、着果、収量、品質に問題は無く、トンネル開閉作業が省力化されることが明らかとなり、参考となる情報成果として公表する。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望品種の年次変動確認と品種の絞り込み。 ・無つる引き栽培の現地実用性確認。 ・無つる引き栽培の仕立て法の検討。 ・黒皮スイカのミツバチ交配の検討
2. スイカニューアイテムの開発と栽培技術の確立 (H27～H30)	本場	ハウス 7.2a 露地ほ場 9a	<ul style="list-style-type: none"> ・促成小玉スイカの品種選定。 ・漬け物用スイカの草勢低下防止のための台木、灌水、施肥の検討。 ・スイカ機能性成分の品種別特性の解明。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促成小玉スイカ5品種を比較し、有望な1品種を選定した。 ・漬け物用スイカの収量は台木‘ダイハード’では草勢が維持されたが、収量は慣行台木と差はなかった。草勢低下に対して、灌水や追肥の効果は認められなかった。 ・機能性成分のシトルリンの含量はスイカ台木‘どんなもん台’と慣行のユウガオ台木で明確な差は認められなかったが、育成中のスイカ台木‘101212’はやや多い傾向であった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・促成小玉スイカ有望品種の栽植密度の検討。 ・漬け物用スイカの草勢低下対策。 ・台木と穂木品種の組み合わせによるシトルリン等機能性成分含量調査

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)アスパラガスの産地拡大を目指した省力・安定栽培技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成27年度 ～平成31年度		(予算額) 支出済額	(596,000円) 583,988円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
1. 定植時土壌改良の省力化 (H27で終了)	本場	露地ほ場 1.0a	・土壌改良方法による収量性の経年変化の確認(定植5年目)・	(成果) ・盛り堆肥法は慣行土壌改良と同等以上の収量性があり、定植5年目も効果が認められ、農業試験場の試験成果と併せて普及に移す技術とした。 (課題) ・終了(H28年)
2. 秀率向上技術の確立 (H27～H31)	本場	露地ほ場 2.0a	・秀品率向上のため、土壌水分条件、施肥管理方法について検討する。	・1回当たりのかん水量は21mmにすることにより、地下40cmの深さまで水分が十分供給され、秀品率が向上し、増収した。 ・慣行施肥に対して追肥の延長、立茎後の重点施肥は増収効果は判然としなかった。堆肥マルチ前に基肥一発肥料は堆肥マルチ前に施肥することで肥効が持続した。 (課題) ・施肥、土壌水分管理の継続検討
3. 鳥取型簡易栽培技術の確立 (H27～H31)	本場	露地ほ場 22㎡ ガラス室 16㎡	・簡易栽培(フレコンバッグ栽培)の立茎数とかん水量の検討 ・簡易栽培(フレコンバッグ栽培)の定植3年目の収量。	(成果) ・フレコンバッグ栽培における立茎数とかん水量について検討し、立茎数は3本、かん水量は6ℓ/株で収量が多かったが、全体の収量は低く、細物が多かった。 ・定植3年目における収量は、露地栽培、雨よけ栽培ともに収穫物の半分以上は細物で収量は低く、フレコンバッグの劣化により長期栽培も期待できないことが明らかとなった。 (課題) ・試験中止

事業名	(単)黒ボク地域における野菜の生産拡大と高品質生産技術の確立		担当室別	野菜研究室
実施計画期間	平成29年度 ～平成33年度		(予算額) 支出済額	(1, 200, 000円) 1, 196, 046 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
露地野菜生産拡大技術の確立 (H29～33)	本場	露地ほ場 48a	1)ブロッコリー安定多収技術の確立 ・作型別適品種の選定 ・5月どりべたがけ栽培の安定化 ・加工業務用栽培の品種、収穫適期の検討 ・秋冬どりブロッコリーの収穫予測技術の確立	(成果) ・6月、10月、12月、2月どり作型で有望とみられる品種を選定した。 ・第68回全日本野菜品種審査会を開催し、優良品種選定の基礎資料とした。 ・5月どり作型でマルチ栽培は不織布のべた掛け栽培の代替技術として有効と考えられた。 ・加工業務用栽培は品種‘11PL40’、‘12SKE5’を株間50cmで8月下旬に定植し、11月中旬から12月上旬に花蕾径16cm程度で一斉収穫すると品質、収量は高い。参考となる成果情報として公表する。 ・秋冬どり品種‘おはよう’の収穫時期は定植後平均気温の積算500℃で花芽分化し、花芽分化後506℃で出蕾し、後280℃で収穫となることが明らかとなった。 (課題) ・各作型の適品種選定の継続 ・加工業務用栽培のマニュアル作成 ・5月どりマルチ栽培の実用性の検討 ・収穫時期の予測技術の現地適応性の検討
施設利用野菜の高品質多収技術の確立 (H29～33)	本場	ハウス15a	1)抑制ミニトマトの生産安定技術の確立 ・単為結果性ミニトマトの特性解明と栽培方法確立 ・抑制ミニトマト耐病性台木の増収技術 ・中玉トマトの品種比較 2)軟弱野菜の増収技術の確立 ・夏播きホウレンソウの品種及び簡易マルチ利用 ・葉菜類の多収技術(コマツナ、チンゲンサイ) ・光照射技術を利用した多収技術の確立	(成果) ・単為結果性ミニトマトに対するホルモン処理によって、つやなし果の発生率は低下した。 ・抑制ミニトマトの増収技術として、和歌苗定植すると増収効果が認められた。 ・ホウレンソウの6月播きの有望品種を選定した。高温期播種の石灰資材を利用した簡易マルチによって、増収効果が認められた。 ・コマツナとチンゲンサイの品種選定と多収のための栽植密度を明らかにした。 ・葉菜類のFR光照射による増収効果について検討し、草丈は伸長するが、増収効果は認められなかった。 (課題) ・単為結果性ミニトマトのつやなし果発生原因の解明 ・ミニトマト耐病性台木に適した栽培技術の確立 ・ホウレンソウ有望品種の特性解明と石灰マルチの実用性評価 ・夏期高温対策試験

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)簡易・迅速土壌診断による野菜の適正施肥技術の確立		担当室別	野菜研究室	
実施計画期間	平成26年度 ～平成29年度		(予算額) 支出済額	(1,005,000円) 990,720円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
土壌診断促進技術の開発(H26～29)	本場 および 現地ほ場	現地ほ場10ヶ所	<ul style="list-style-type: none"> ・水抽出による土壌分析値の実用性を確認する(窒素、リン酸、カリ)。 ・スイカーブロッコリー体系の現地土壌養分実態を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討中の水抽出方法で現地及び場内ほ場について従来の方法と比較し、リン酸とカリでは高い相関関係が認められた。 ・現地ほ場10カ所のスイカ、ブロッコリー作付前の土壌を採取し、土壌養分を分析した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易診断のデータ蓄積による精度向上とマニュアル化 ・現地ほ場土壌化学性の経年変化の解明 	
土壌養分に応じた施肥基準の作成(H26～29)		露地ほ場12a	<ul style="list-style-type: none"> ・堆肥施用下における適正窒素施用量を明らかにする。 ・土壌蓄積リン酸、加里の有効利用基準を明らかにする。 ・スイカーブロッコリーの養分吸収特性と肥効実態を明らかにする。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の試験結果から、スイカにおいて堆肥8施用量8m³/10aの施用は窒素を5割削減、4m³/10a施用ではの場合は窒素成分は慣行量とすることが適正と考えられた。 ・ブロッコリーの結果は取りまとめ中。 ・土壌蓄積リン酸、カリの成績は取りまとめ中である。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年変化の解明 	

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)露地を有効利用する花きとシバの省力・高付加価値栽培法の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成26年度 ～平成30年度		(予算額) 支出済額	(1,620,000円) 1,594,480円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シンテッポウユリ(季咲き)の省力化による長期出荷体系の確立	本場	ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・シンテッポウユリの盆出荷作型の品質向上に向けた施肥方法の検討 ・品種や苗冷蔵等を組み合わせた秋彼岸出荷作型の確立。 ・露地における収穫期分散法の確立。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫時輪数は6月下旬以降の中位茎径と関係が深く、茎径が太いと多輪が増加する傾向がみられ、初期の追肥を削減することで、茎径を細くし、多輪を減らすことができた。 ・露地彼岸栽培において、苗冷蔵代替とした簡易夜冷の利用は、苗冷蔵1週間と同等の効果がみられた。 ・'F1セブタ'は6月10日頃に定植すると、彼岸高需要期の出荷率が高かった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品質向上に向けた施肥法の継続検討。 ・品種、苗冷蔵、定植日等を組み合わせて、露地長期出荷栽培体系を確立する。
実付き枝物における省力・高付加価値栽培技術の確立	本場	ほ場 5a	<ul style="list-style-type: none"> ・品目に応じた誘引法を検討する。 ・省力化で高付加価値商品の栽培技術を確立する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹棚を利用して品質を向上し、収量を増加する改良整枝を検討中。 ・収穫後の葉もぎに労力がかかる。ツルウメドキの常温乾燥36時間処理で8割以上が落葉し、落果への影響は見られなかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに省力で高品質化可能なツルウメドキの一字整枝や、地這い誘引等による樹形管理法の確立。 ・簡易落葉法の継続調査。 ・サルトリイバラの省力誘引と簡易落葉法の検討。
シバオリジナル育成品種等の生産性向上をめざした栽培技術の確立	本場	ほ場 5a	<ul style="list-style-type: none"> ・'グリーンバードJ'の保湿資材や鎮圧を組み合わせた砂土栽培法の検討 ・'グリーンバードJ'沈み症(仮称)の発生原因の解明と対策法の検討 ・パーチカルカット等によるシバ黄化症等の発生回避技術の確立 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂土表層に保水性の高い籾殻くん炭や、高分子吸収体を施用すると、根が表層付近に集まった。 ・'グリーンバードJ'の秋施肥を極端に控えたり、特定の除草剤を連用すると、春季の葉長が短くなり生育が抑制された。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・'グリーンバードJ'に対する適正な施肥量や、生育を抑制する除草剤の散布時期や散布量等を明らかにする。

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)秋冬期に低コストで高品質化を実現する切り花安定生産技術の開発		担当室別	花き研究室
実施計画期間	平成28年度 ～平成31年度		(予算額) 支出済額	(1,933,000円) 1,908,698円
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う 場所	試験研究 調査の対象・数量	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
シンテツポウユリ(秋冬出荷)のプラスチック・花首徒長対策の検討	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・抽台率低下の原因を明らかにし、抽台促進技術を検討する。 ・プラスチック減少のための管理方法を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植前苗冷蔵を行う場合、葉枚数が多い方が抽台率が高まり、品質が向上した。 ・抽台まで灌水を控え味に管理すると、抽台が遅れ切り花品質も低下した。灌水が少なくてもプラスチックの発生は減らなかった。 ・活着時の7割遮光でハウス内の温度が低下し、抽台率が向上した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象に左右されない抽台向上技術の検討。 ・秋冬出荷栽培に適した品種を選定する。
トルコキキョウ(秋冬出荷)草丈伸長技術の確立	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・EOD保温の目標温度と保温時間の検討 ・EOD保温+EOD光照射の併用効果 ・EOD処理効果の高い品種の検索 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EOD光照射とEOD保温により、これまで暖房が無いと開花しないとされていた12月出荷が可能となることが明らかになった。 ・FR光の終夜照射で、育苗中の冷蔵処理が簡素化できる可能性が示唆された。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FR光照射やEOD保温法を検討し、開花促進や切り花伸長に最も効果的な処理法を明らかにする。 ・12月出荷可能な品種を選抜する。
ストックにおけるLED-FR照明の効果的な利用方法の確立	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・FR照明、遮光資材の利用による開花調節法の検討 ・土壌水分やECの推移が草姿に及ぼす影響を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育初期の照射は葉枚数を減少させ、草丈伸長にはつながらなかった。 ・花芽分化前の遮光や花芽分化後から収穫終了までの遮光で10日程度の開花抑制ができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FR照明を利用したさらなる草丈伸長方法の検討。 ・開花期が前進した年の利用や収穫が集中したときに労力の分散が可能な開花抑制技術の確立。
EOD処理に反応性の高い品目の栽培実用化	本場	ハウス 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・品質向上に効果的なEOD光照射法の検討 ・EOD保温の効果を最大限に高める処理法の検討 ・処理の組み合わせによる実証展示 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスターはEOD光照射で開花が早まり、草丈が伸長した。 ・EOD光照射で暖房を用いないアスターの秋冬期出荷を試みた。光照射で草丈が40%以上伸長し、開花が早まった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果が高まる放射照度の検討。

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)市場競争力のある鳥取オンライン園芸新種の育成		担当室別	果樹研究室、河原試験地、砂丘地農業センター、野菜研究室、花き研究室	
実施計画期間	平成28年度 ～平成32年度		(予算額) 支出済額	(6,157,000円) 5,336,110円	
試験研究 調査の目的	試験研究 調査を行う 場所	試験研究調 査の対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
ナシ新品種の育成	果樹研究 室	場内露地ほ 場 10a	・ナシ新品種、新系統の 鳥取県における適応性を 検討する。	(成果) ・「B2604-11」は場内試験、現地試験ともに芯ぐされや芽ぐされの 発生が多発したため調査を中止した。134系統について果実調査 を行い、6系統を1次選抜、2系統を2次選抜、1系統を3次選抜、1 系統を4次選抜した。 (課題) ・継続して調査を行うとともに、新たに交雑した個体についてほ場 定植前に黒星抵抗性について遺伝子診断を行う。	
カキ新品種の育成	河原試験 地	場内露地ほ 場 10a	・育種系統の特性調査を 行い、選抜を進める。	(成果) ・平成18年度に交雑育種を行った26系統の果実の品質調査を 行った。食味がやや優れる系統が6系統あったが、外観・生理障 害等問題も見られた。8系統を淘汰した。 ・平成28年度に交雑育種を行った果実から種子を播種し、135本 の実生苗を育成中。 (課題) ・継続して特性調査を行う。	
新しい青ブドウの選 抜	砂丘地農 業研究セン ター	場内ハウス 3a	・1粒重12g以上で糖度 18度以上の青ブドウの 創出	(成果) ・平成15、16年に育種した27系統から、糖度が高く(20度以上)、 盆前出荷可能な「04HS-2」を選抜し、平成28年から無加温ハウス で育成中。 ・「04HS-2」は、棚トンネルハウスでのジベレリン処理試験で、1 回、2回処理ともに種子の混入、コルク状の果面アザ等の問題点 (課題) ・無加温ハウス内の若木育成。 ・種子の混入、コルク状アザの発生状況確認と、改善策の検討。	
スイカ新品種の育成 と実用化	野菜研究 室	場内ハウス 4.4a 現地ほ場 3a	・有望系統の現地におけ る栽培適性確認。 ・黒点根腐病に強いスイ カ台木の育成。	(成果) ・スィカつる割病抵抗性の高い系統の中から、慣行の台木品種「ど んなもん台」よりも黒点根腐病に強いと考えられる2系統を選抜し た。 (課題) ・黒点根腐耐病性形質の導入。 ・有望系統の黒点根腐病に対する耐病性を検討する。	
イチゴ新品種の育成 と実用化		場内ハウス 4.0a	・多収で食味の良いイチ ゴ育成のための、交雑実 生による育成と選抜。 ・育成品種の品種登録申 請 ・育成品種の栽培特性解 明	(成果) ・有望系統として2系統を4次選抜した。 ・平成28年2月に品種登録出願した「とっておき」の栽培技術の一 部を「イチゴ新品種「とっておき」の受苗時期別の定植適期」として 参考となる情報成果として発表した。 (課題) ・有望系統の継続選抜 ・「とっておき」の特性解明と栽培方法の確立	

(平成30年5月31日現在)

シバ優良系統の育成	花き研究室	場内露地ほ場 3a	・葉枯病耐性・生育旺盛・揃いの良いコウライシバの育成	(成果) ・地下部の生育が旺盛で株張りが早く、紅葉が非常に遅い系統を選抜した。 ・この系統は、ゴルフ場の葉枯病常発場所に定植しても発病せず、耐病性が高いと判断した。 (課題) ・継続調査。
実つき枝物の優良系統の育成		場内露地ほ場 2a	・既存品種が皆無であることから、本県で確立した樹形管理に適した品種を育成する。	(成果) ・ツルウメモドキは実が大きく、実数が多い「T-10」を有望と認めた。 ・サルトリイバラは県内自生種の中から、棘が極めて少ない系統を選抜した。 (課題) ・品種登録のための生育調査
リンドウの新品種育成	花き研究室・日南試験地	花き研究室 ハウス10㎡ 露地ほ場2a	盆咲き品種の開発	(成果) ・現地試作で評価が高かった極早生系統と同等の組合せによる交配系統の苗を新たに現地圃場に定植し、定植2年目の特性調査を行った。 ・新たな交配組合せの種子を採種し、育苗・定植して2年目の特性調査を行った。 ・現地試作で評価が高かった極早生系統と近似の親系統の苗を現地に供給した。 (課題) ・新品種候補等の親系統の維持 ・新品種候補の切り花品質調査による選抜淘汰
		日南試験地 0.6a	日持ちの良い三倍体リンドウの育成	(成果) ・24年度に得た四倍体と二倍体の交雑個体を無菌播種した。 ・26年度に交雑個体が三倍体個体であることを確認した。 ・28年度に三倍体の切り花品質評価を行った。現在、挿し芽増殖法を検討中。 (課題) ・三倍体の増殖法の確立
ユリの新品種育成	花き研究室 現地ほ場	花き研究室 ハウス:80㎡	小球開花性の新奇性の高いユリ品種の育成	(成果) ・小球開花性選抜系統‘鳥鱗1号’及び‘鳥鱗4号’の特性解明のため、栽培特性調査を行い、定植前に苗冷蔵を4週間行うと抽台率が向上することが明らかとなった。 ・‘鳥鱗1号’は平成30年2月に品種登録出願を行い、同年2月13日付けで出願受理された。 (課題) ・‘鳥鱗1号’の秋冬栽培における抽台の安定化
	花き研究室	花き研究室 ガラス温室 20㎡ ハウス50㎡	彼岸に出荷できる抑制作型に適するシンテツポウユリの開発	(成果) ・18年度までに既存のシンテツポウユリ×タカサゴユリ自生種F1を交雑し種子を得た。 ・19～27年度は系統内で集団育種法により種子を得た。目標形質(短日開花性、花向き等)を持つ優良系統の選抜の選抜を行い、平成22までは葉の細いものが多かったが、徐々に葉が広く、花が上向きの系統が増えた。 ・29年度は前年度選抜で得られた系統の中から、輪数が多い系統を選抜し、季咲きおよび秋冬作型で採取を行った。 (課題) ・輪数増加と系統内形質揃いの向上

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)園芸産地を守る難防除病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成23年度 ～ 平成32年度		(予算額) 支出済額	(2,027,216円) 1,974,228円
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
ブロッコリーの難防除 病害に対する防除対 策の確立	本場	ほ場6a	ブロッコリー黒腐病に対し、効果 の高い防除技術を確立する。	(成果) ・黒腐病に対し、抵抗性誘導剤は発病抑制 効果が認められ、効果的な防除体系が明ら かになった。 (課題) ・より効果的な防除体系の検索。
ラッキョウ赤枯病の防 除対策の確立	西園ほ場	ほ場6a	ラッキョウ赤枯病について、温湯 消毒を含めた総合的な防除技術 を確立する。	(成果) ・赤枯病に対し、防除効果のある散布薬剤 が認められた。 ・種球の太陽熱消毒について、処理時期は 発芽前が生育に影響がないことが明らかと なった。効果面は無処理区の被害が少な く、再検討が必要であった。 ・種子消毒剤への展着剤加用効果は、判然 としなかった。 (課題) ・温湯消毒以外の防除対策の確立。
ミニトマトの青枯病の 防除対策の確立	本場	ほ場5a	ミニトマト青枯病について、有効 な防除対策を確立する。	(成果) ・青枯病に対する有望な耐病性台木が明ら かになった。 ・微生物資材による効果検証も継続してい る。 (課題) ・耐病性台木については栽培分野での検討 も必要。
アスパラガス病害対 策	本場	ほ場6a ハウス3a	アスパラガス茎枯病、斑点性病 害について、有効な防除対策を 確立する。	(成果) ・茎枯病、斑点病に効果のある薬剤がある 程度明らかになった。 (課題) ・体系防除の組立てが必要。
ナシの難防除病害虫 に対する防除技術の 確立	本場 現地ほ場	ほ場10a 現地ほ場10a	ナシの黒星病、果実腐敗症状、 シンクイムシ類、ハダニ類等に 対する防除対策を確立する。	(成果) ・黒星病に対して、亜リン酸肥料は2000倍 希釈でも効果が高いことが確認された。 ・黒星病発生園では、亜リン酸肥料を利用 する事によって、発病が少なくなる傾向が認 められた。 ・黒星病菌に対して、効果の低下したDMI剤 が明らかになった。 ・新甘泉における黒星病感染時期や感染後 発病するまでの日数等を明らかにした。 ・ナシにおいて春に発生するケムシ類に効 果の高い薬剤を選定した。 ・シンクイムシ類に対して、効果の高い薬剤 が明らかになった。 ・ハダニ類に対する薬剤散布量の違いに よって、防除効果に差が出る可能性が示唆 された。 (課題) ・防除体系の確立。 ・現地での実証。

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)砂丘地における特産野菜の新品種の育成		担当室別	砂丘地農業研究センター		
実施計画期間	27年度 ～ 32年度		(予算額) 支出済額	(3,200,000円) 3,129,526円		
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題		
1 ラッキョウ新品種の育成						
(2)特性評価・選抜 ア 灰色かび病耐病性品種の 三次選抜	砂丘地農業研究 センター・西園ほ 場・本場培養実 験室・現地ほ場	西園ほ場13.5㎡	灰色かび病耐病性系統を収量性 から三次選抜する。	(成果)大栄一号と収量が同等以上だった5 系統を三次選抜した。	(課題)選抜した5系統の特性調査を行う。	
イ 乾腐病耐病性系統の種球 増殖率調査 ウ 現地有望系統KSM系統の 種球増殖率調査		西園ほ場12㎡	平成20年に交配された乾腐病耐 病性系統T系統およびF系統、現 地優良系統KSMについて、種球 増殖および特性調査を行う。	(成果)T系統から3系統、F系統から2系統が 収量、増殖率が高かった。	(課題)継続調査が必要	
2 ナガイモ新系統の育成						
(1)選抜系統の特性評価 ア 切芋・定芽の違いによる収 量・品質等特性調査		西園ほ場56㎡	ナガイモ有望系統の萌芽性、収 量性、品質について特性を評価 する。	(成果)'1u61'は種芋重を150gにすることで 'ねばりっ娘'と同程度の芋重となった。また 品質、作業性が良いことから有望である。 'NSOH117'は種芋重を150gにすることで 出芽率および芋重が向上することが明らか になったが、種芋の種類に関わらず芋の尻 部に多重割れ症が多く見られた。	(課題)	
イ '1u61'の現地栽培特性評 価		東園現地ほ場17.2 ㎡	現地にて生産者慣行で栽培され た'1u61'について評価する。	(成果)芋重は1kg程度となり、障害発生も少 なく、有望と考えられた。	(課題)1～2年現地調査を行い、評価を行 う。	
ウ 切片およびムカゴによる増 殖法の検討		砂丘地農業研究セ ンターほ場16㎡	ムカゴの着生が極端に少ない'1 u61'の切片による増殖法、'NS OH117'のムカゴによる増殖法を 検討する。	(成果)切片の収穫率は全ての系統で低 かった。また'NSOH117'はムカゴでの増殖 が望ましいことが明らかになった。	(課題)最適な切片の重量、定植時期を検討 する。	
(2)ウイルス接種'1u61'の収 量性比較 ア '大橋系'由来ウイルス接 種(暴露4年目)	西園ほ場32㎡	ウイルス症状の軽微なナガイモ 在来系統'大橋系'に由来するウ イルスを汁液接種した'1u61' について暴露栽培を行い、収量性 について4年目の評価を行う。	(成果)暴露栽培4年目でもウイルスフリー株 と比較して、収量低下は認められなかった。	(課題)継続調査が必要		
(3)'NSOH117'の萌芽性調査	西園ほ場32.4㎡	切芋での萌芽の揃いが悪い'NS OH117'について、種芋の部位 別の出芽率の推移を調査する。	(成果)'NSOH117'の収穫率は首部以外 で80%以上となることが明らかになったが、 '大橋系'と比較して収量性は低かった。	(課題)終了		
白ネギ(坊主不知)新品種の育成	弓浜砂丘地分場	弓浜砂丘地分場 ほ場 3a	新たな坊主不知ネギの交雑種の 育成	(成果) ・在来の坊主不知ネギ系統の自殖5系統440 個体、交雑4系統209個体を選抜した。	(課題) ・抽台しない系統を二次選抜する。	

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)ねばりっ娘を核とする「砂丘ながいもブランド」強化に向けた栽培技術の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター		
実施計画期間	28年度 ～ 32年度	(予算額) 支出済額	(3,000,000円) 2,836,813円		
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 'ねばりっ娘' 専用栽培技術の 確立	砂丘地農業 研究センター・西 園ほ場・現地ほ 場				
(1) 施肥の検討 ア 追肥の前進		西園ほ場1.6a	'ねばりっ娘' に適した肥培管理 を検討するため、追肥時期を早 め、又は延長し、生育、収量、品 質に及ぼす影響について調査す る。	(成果) 追肥前倒及び延長処理により2L以上 の芋の割合が若干増した。収量・品質は差 がなかった。 (課題) 継続調査及び異なる肥培管理の検 索。	
(2) 縦割れ症の原因究明 イ 砂の差異による影響		由良現地ほ場0.4a 東園現地ほ場0.2a 西園ほ場0.1a	縦割れ発生ほ場と非発生ほ場の 土壌の差異を調査する。	(成果) 生育期間中のpHが他のほ場より高い 傾向があり比較的粒径の粗い由良ほ場で 縦割れの発生が多く、黒陥没症の発生は由 良ほ場で少なかった。 (課題) 継続調査が必要。	
ウ 施肥による影響		由良現地ほ場1.4a	施肥方法の違いが縦割れ発生に 及ぼす影響を、縦割れ甚発生ほ 場で検討する。	(成果) 慣行より総窒素量の多い施肥を行っ た区において縦割れの発生が増加した。 (課題) 生育初期又は後期の増肥が、縦割れ の発生に及ぼす影響を検討する。	
(3) 頂芽保存法の検討		西園ほ場0.2a	頂芽保存時にナガイモコンテナを 用いる場合の保存資材を検討す る。	(成果) 砂又はパーミキュライトが収穫率・収 量面で有効な資材だった。パーミキュライト は砂と比較して軽量化が図れると考えられ た。 (課題) 終了	
(5) ムカゴ着生低減方法の検 討 ア 植物生長調整剤による影 響		西園ほ場0.04a	植物調整剤の使用が'ねばりっ 娘' のムカゴの発生に及ぼす影 響を検討する。	(成果) 植物調整剤(GA)を生育期間中の莖葉 に3回施用するとムカゴ量が減少し芋重は 増加する傾向が見られた。 (課題) 継続調査が必要。	
2 黒陥没対策技術の確立					
(1) 黒陥没障害の原因究明 イ かん水時期による影響		砂丘地研究センタ ーほ場 1.7a	かん水時期の違いが、黒陥没症 発生等に及ぼす影響を検討す る。	(成果) 黒陥没の発生は反復間差があり、かん 水処理時期による影響は判然としなかつ た。 (課題) 継続調査が必要。	
オ 芋同士の間隔が近いこと による影響		東園現地ほ場1.3a	密着栽培を行い、芋同士の距離 が近いことが黒陥没症発生に及 ぼす影響を検討する。	(成果) 普通ナガイモで密着栽培を行うと黒陥 没症の発生が増大した。 (課題) 'ねばりっ娘' において検討する。	
カ 土壌pHによる影響		西園ほ場0.5a	土壌pHの違いが黒陥没症の発 生、品質、収量に及ぼす影響を 検討する。	(成果) 黒陥没の発生は炭カル区・慣行区で 見られ、イオウの施用による土壌pHの低下 によって収量が減少する傾向が見られた。 (課題) 継続調査が必要。	
3 在来ナガイモの生産安定技術 の確立					
(1) 在来系統の選抜	西園ほ場1.6a 東園現地ほ場1.1a	園芸試験場が保存している24系 統から1次選抜した13系統を、収 量性及び形状から2次選抜す る。	(成果) 収量性が良く形状の良い8系統およ び黒陥没発生ほ場での収量性が良かった2 系統の合計8系統(重複あり)を2次選抜し た。 (課題) 収量性及び形状の良い系統を3次選 抜を行う。		
(3) 省力化施肥の検討	西園ほ場1.1a	省力化及びコスト削減を目指し、 追肥資材数を減らす施肥体系 「い〜ね403」の収量性を比較す る。	(成果) 「い〜ね403」を用いる施肥体系は窒 素量39kg/10aで慣行と同程度の収量および 品質となり、10a当たり約9,000円コスト減と なった。 (課題) 終了		

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)産地ニーズに応える特色ある鳥取型ブドウ栽培技術の確立	担当室別	砂丘地農業研究センター			
実施計画期間	29年度 ~ 33年度	(予算額) 支出済額	(2,100,000円) 2,056,153円			
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題		
1 'シャインマスカット'に続く有望品種の検討	砂丘地農業研究センター	砂丘地研究センターほ場 5品種×各1樹 (1.3a)	5品種('コトビー' '雄宝' 'ヌーベルローズ' 'マスカ・サーティン' 'マスカット・ノワール')の特性を確認する。	(成果)'コトビー'は着色良好で、糖度と食味も良好で、皮ごと食べるには果皮がやや厚かった。'雄宝'は糖度がやや低く、裂果が目立った。その他の3品種は樹冠拡大中である。		
(1)'シャインマスカット'を親とする新品種の特性確認				(課題)継続 'コトビー' '雄宝'は来年度着果量が増える見込み。その他3品種は樹冠拡大を進める。		
(2)盆前出荷可能な品種の特性確認				(成果)8月7日収穫では酸が減少し、糖度が向上し、食味が良好となった。		
(3)第13回ブドウ系統適応性検定試験		砂丘地研究センターほ場 1品種×1樹(0.4a)	1品種('涼香')の特性を確認する。	(課題)継続 引き続き、特性を確認する。		
2 基幹品種の栽培技術の確立		砂丘地研究センターほ場 2樹(0.8a)	砂丘地研究センターほ場 4品種×各2樹 (1.6a)	'安芸津29号'の特性を確認する(系適最終年)。	(成果)1回処理は2回処理に比べて果粉の着生は良かったが、他の果実品質が劣った。Mn処理しても着色への効果はなかった。	
(1)'テラウェア'のジベレリン1回処理技術の検討					(課題)継続 1回処理の方法を再検討する。	
(2)'ヒオーネ'の台木による生育特性の比較	(成果)各系統とも初着果となり、'3309'と'101-14'の樹冠拡大と果実収量が他の2系統に比べ優れた。					
(課題)継続 樹冠拡大と着果した果実の調査を進める。	3 'シャインマスカット'高品質果実生産技術の確立	砂丘地研究センターほ場 2樹(1.2a)	砂丘地研究センターほ場 2樹(1.2a)	砂丘地研究センターほ場 4品種×各2樹 (1.6a)	無加温ハウスで展葉7枚頃に発生が見られる蕾振るい症について、予備整形と早期摘穂の影響を検討する。	(成果)予備整形、早期摘穂処理の有無に関わらず、蕾振るい症は発生した。
(1)蕾振るい症対策技術の検討	(課題)継続 マルチによる効果を試験する。					
(2)省力的な新梢管理法の検討	樹勢が旺盛で新梢管理に労力を要するため、効率的な新梢管理法について調査する。					(成果)房元の副梢葉を1枚残す、あるいは全除去すると、葉面積指数は問題なかったが、果皮汚れと果実肩部の日焼けで果実品質低下につながった。
(3)台木による生育特性の比較	(課題)継続 房先は全除去として、房元の慣行2~3枚、全除去で比較する。	(成果)4系統とも同等の主枝長となった。				
(課題)継続 樹冠拡大と着果した果実の調査を進める。	4 鳥取型低コスト単棟ハウスにおける栽培技術の確立	砂丘地研究センターほ場 2.8a	砂丘地研究センターほ場 2.8a	'シャインマスカット'の初期生育や果実品質等に適する台木を検討する。	(成果)現地事例や農家の意見を生かしながら、樹形を8処理区とし、植え付けた。各区の苗木の新梢は順調に生育した。	
(1)植付法、幼木の樹形等の検討	(課題)継続 各処理区の樹形に基づきながら樹冠拡大を進める。					

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)日本一の砂丘ラッキョウ産地にふさわしい21世紀型栽培技術の確立		担当室別	砂丘地農業研究センター	
	実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(3,000,000円) 2,786,172円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
1 最適な施肥法の確立					
(1)収量に影響する重点施肥時期の解明	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場	鳥取市福部町ほ場300㎡	9月中旬、10月上旬・下旬の重点施肥が生育、収量に及ぼす影響を、旧慣行を対照として検討する。	(成果)旧慣行区と比較して、新慣行区、9・10月増肥区とも収量が増加する傾向が見られたため有効な施肥法と考えられた。また、合計施用窒素量が新慣行区と比較して少ない9・10月増肥区は施肥量削減において効果的な施肥法と考えられた。 (課題)引き続き、9月中旬から10月上旬頃中心の重点施肥によるラッキョウの収量特性を検討する。	
(2)中部地区における施肥の検討 ア 春肥の検討		砂丘地研究センター西園ほ場72㎡	中部地区における春肥の効果を「大栄1号」を用いて検討する。	(成果)春肥によって葉長、葉色、葉重が増加する傾向が認められた。5月収穫では隣室重が増加する傾向が見られた。 (課題)引き続き春肥の施用時期について検討する。	
イ 基肥全量施用による省力施肥法の検討(予備試験)		砂丘地研究センター西園ほ場9.2㎡	ラッキョウ専用開発された被覆窒素入り複合肥料を用いて基肥一回施肥で収量を検討する。	(成果)慣行区と比較して基肥全量施用した一発区は、収量に差異はなかったが、球の出荷規格割合が慣行と大きく異なりM割合が高かった。 (課題)継続して検討を行う。	
(3)簡易ライシメータを用いた窒素溶脱量の測定		砂丘地研究センターほ場225㎡	施肥時期と窒素流出量について検討する。	(成果)収量面から、初期の肥料は必要ないと考えられた。9・10月増肥により、収量の増加が期待できるが、流出量が増加した。 (課題)引き続き、年内施肥を9月中旬から10月上旬とした場合の窒素流出量について検討する。	
2 早出し栽培技術の確立					
(1)現地優良系統の選抜と特性解明	砂丘地農業研究センター・西園ほ場・現地ほ場	鳥取市福部町ほ場50㎡	福部砂丘で平成23～25年に収集した17系統の内、昨年3次選抜した5系統の特性を検討する。	(成果)5系統の内、早期収穫時の収量特性に優れたのは3系統だった。 (課題)3次選抜した5系統の収量特性の年次変動を調査する。	
(2)春かん水の効果的な方法の検討		砂丘地研究センターほ場72㎡	春季のかん水量の違いが、収量、乾物率(熟期)に及ぼす影響を収穫時期別に検討する。あわせて、灰色かび病の発生についても検討する。	(成果)収穫前期の収量はいかん水処理によって1球重が増加したため増加したものと考えられた。また、かん水量が多いほど収量は増加する傾向が見られた。収穫後期でも、かん水処理によって収量が増加した。いずれの収穫期とも、かん水処理による隣室乾物率への影響、灰色かび病発生への影響はなかった。 (課題)秋季および春季のかん水処理が生育、収量、品質に及ぼす影響を検討する。	
(3)栽培環境条件の検討 ア 被覆資材を用いた早出し栽培の検討		鳥取市福部町ほ場200㎡	冬から春先(11月下旬～4月中旬)の被覆資材のベタがけによる早出し栽培の可能性について検討する。	(成果)被覆資材のベタがけ処理によって地温の上昇が認められたが、収量に及ぼす影響は判然としなかった。 (課題)試験終了。	
3 砂丘畑での有機・特別栽培技術の確立					
(1)慣行栽培と比較した施肥体系の検討 ア 「大栄1号」における検討	砂丘地研究センター西園ほ場72㎡	中部地区で主に栽培されている「大栄1号」を用いて、慣行施肥を、鶏ふんの肥効率を60%と設定して置き換え、化成肥料由来窒素成分を半減し、収量を検討する。	(成果)収量は5月収穫、6月収穫ともに化成・鶏ふん半量区、9・10月化成区で慣行と同等の収量が得られた。 (課題)「大栄1号」を用いて、化成肥料由来窒素成分を9・10月のみ施用し、慣行の施肥体系と比較する。		
イ 「レジスタファイブ」における検討		砂丘地研究センター西園ほ場72㎡	園試育成品種「レジスタファイブ」を用いて、慣行施肥を、鶏ふんの肥効率を60%と設定して置き換え、化成肥料由来窒素成分を半減し、収量を検討する。	(成果)収量は5月収穫、6月収穫ともに化成・鶏ふん半量区、9・10月化成区で慣行と同等の収量が得られた。いずれの処理区とも5月収穫より6月収穫で収量が増加した。 (課題)「レジスタファイブ」を用いて、化成肥料由来窒素成分を9・10月のみ施用し、慣行の施肥体系と比較する。	
4 省力化技術の確立					
(1)チェーンポット栽培に最適な培土の検討	砂丘地研究センター西園ほ場40㎡	チェーンポットを定植に用いる場合、チェーンポット内に詰める用土について検討する。	(課題)培土を充填した場合の重量は、砂を充填した場合の半分以下となった。また培土はネギ用培土が収量が最も多かった。 (課題)安価な培土を検索する。		

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)白ネギの産地力強化に向けた栽培技術の確立		担当室別	弓浜砂丘地分場	
実施計画期間	27年度 ～ 31年度		(予算額) 支出済額	(2,514,000円) 2,510,470円	
試験研究 調査の目的	試験研究調査 を行う場所	試験研究調査の 対象・数量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
新たな病害虫蔓延防 止対策技術の確立	弓浜砂丘地分 場	米子市現地ほ場 10a	難防除土壌病害「ネギ黒腐菌核病」 の早急な防除方法の確立を目指し、 各種薬剤処理による防除技術の確 立を行う。	(成果) ・メチルイソチオシアネート・D-D油剤40ℓ/10aおよ びカーバムナトリウム塩60ℓ/10aによる土壌処理 後の農ボリによる全面被覆、ガス抜き後の微生物 資材の投入による効果が高いことが確認された。 ・生育期散布の新規薬剤(未登録)は可販率10 0%と効果が高かった。既存薬剤ではアフェットフ ロアブルとモンガリット粒剤の組み合わせで高い 可販率が得られた。 (課題) ・発生源となるネギ残渣の処理方法の確立	
		ほ場 15a	ネダニ類による被害軽減のための 防除技術の確立および、ネギアザミ ウマに対して効果的な防除体系の 確立を行う。	(成果) ・ネギアザミウマに対する散布剤アグリメックにお いて、マッチおよびサンクリスタルとの混用によっ て効果が増すことが確認された。 ・ベリマークSCの苗箱灌注処理は定植10日前処 理においても他剤以上に効果が持続することが 確認された。 (課題) ・防除体系の確立	
		ほ場 90a	高品質な白ネギの周年安定供給に 向け、作型別適品種の選定および5 月・6月どり作型における栽培等を 検討する。	(成果) ・一本ネギの完全周年化に向け、各作型における 有望品種を選定した。 ・5月どりトンネル被覆栽培においてトンネル除去 後の灌水は肥大促進、増収に有効で、栽植密度 は4,000本/10aが良いと考えられた。 (課題) ・年次変動の確認および各作型の継続的な適品 種の選定。 ・高温時期における育苗技術の確立	
周年出荷体系の強化 に向けた栽培技術の 確立					

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)「輝太郎」から始まる鳥取カキシリーズの安定生産技術の確立		担当室別	河原試験地	
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額) 支出済額	(1,280,000円) 1,267,380円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
輝太郎早期成園化技術の確立	本場	輝太郎 本場 幼木83樹	1台木の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する 2整枝方法の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する 3着果量の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響を調査する	(成果) 1台木の違いによって樹体生育量に差が見られ、禅寺丸台木の生育量が劣った。 2後期生理落果が70～80%程度見られ、果実の収量性・品質の検討はできなかった。 (課題) 1後期生理落果の原因究明と改善対策の検討・実施	
輝太郎生産安定のための技術開発	河原試験地 本場	輝太郎 河原試験地若木 約80樹 ポット樹26樹 本場幼木83樹	1後期生理落果の実態調査及び軽減対策を検討する	(成果) 1後期生理落果は試験地約11%、本場約7%であった。 2樹勢が強く二次伸びが多い樹で落果率が高い傾向が見られた。 3環状剥皮により落果軽減効果が認められた。 (課題) 1後期生理落果の原因究明と改善対策の検討・実施	
輝太郎果実品質向上のための技術開発	河原試験地	輝太郎 若木80樹 ポット樹20樹	1環状剥皮の効果を確認する 2出荷時期前進化対策を検討する 3着果管理法を検討する 5汚れ防止対策を検討する	(成果) 1環状剥皮により落果軽減、果実肥大・熟期促進効果が認められたが、裂皮等により等級低下が見られた。 2フロン散布により熟期が促進されたが糖度が低下した。 3富有と西条の中間的な着果基準で、葉果比は21程度となった。果実品質に差は見られなかった。 4コマツキムシ類により汚れ(傷)が助長されることが明らかとなった。袋掛けでは汚損果が助長された。 (課題) 1環状剥皮の処理幅の検討 2熟期促進試験の継続 3葉果比と果実品質の確認 4コマツキムシ類の現地発生程度の確認と対策の検討	
輝太郎に適した施肥体系の検討	河原試験地	輝太郎 若木20樹	1輝太郎に適した施肥体系を検討する	(成果) 1元肥なし区では葉色値、糖度が低くなった。 (課題) 1年次変動等継続調査	
西条生産安定技術の確立	河原試験地、本場	西条 河原試験地 成木35樹 本場 幼木31樹	1台木の違いが樹体生育及び果実の収量性・品質に及ぼす影響をちょうさする 2施肥体系の検討を行う	(成果) 1台木の違いにより樹体生育量に差が見られ、禅寺丸台の生育がやや劣り、シナガキ台では生育が不良であった。 2着らいが安定せず、生理落果も多く、果実の収量性・品質の検討はできなかった。 2元肥削除区では着らい数の減少、葉色値の低下が見られた。 (課題) 1継続調査	
富有生産安定技術の確立	河原試験地	富有 成木12樹	1富有に適した省力追肥体系の検討 ・元肥を施用しない施肥体系の確立	(成果) 1元肥削除区では、葉色値が低くなった。 2果実品質に差は認められなかった。 (課題) 1長期間での果実品質を確認する。	
花御所の生産安定と高品質化技術の確立	河原試験地、本場	花御所 河原試験地 成木樹15樹 ポット2樹 本場 成木2樹	1くぼみ・黒変果の発生実態調査 ・発生率、発生時期等	(成果) 1くぼみ果の発生率は約29%、内部黒変の発生率は約86%であった。 2内部黒変の発生は樹によって傾向が異なる傾向が見られた。 (課題) 1年次変動調査 2台木品種による軽減対策の検討	

(平成30年5月31日現在)

事業名	(単)作柄安定及び作期拡大による儲かる中山間地農業技術の確立		担当室別	日南試験地	
実施計画期間	26年度 ～ 30年度		(予算額)	(2,510,000円)	
			支出済額	2,501,602円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
夏秋トマトの9～10月高品質安定生産技術の確立	日南試験地	ハウス 8.4a	<ul style="list-style-type: none"> ・中高位段の着果安定化及び裂果軽減策を検討し、9月～10月の収量確保、高品質化技術を確立する。 ・日射に比例して自動かん水が可能な装置の雨よけトマト栽培での実用性を検討する。 ・土壌病害対策技術を確立する。 ・薪ストーブを利用することによる作型の前進化および収穫期延長の可能性を検討する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・‘りんか409’が最も多収で有望であったが、‘桃太郎ワンダー’は裂果を除いて問題は認められず再検討を要した。 ・放射状裂果対策にはフルメット液剤の効果が高かった。 ・誘引角度を急にしたり密植することで低位段の過肥大を抑制し高品質化が可能な反面、着果数の減少や草勢低下が問題となった。 ・追肥開始時期を慣行より1週間早めることで草勢が強く維持され多収となった。 ・曇り及び雨の日のかん水量を抑制する改良を行った日射制御型拍動かん水装置の稼働状況は従来型と大差なく再改良を必要とした。 ・台木品種では‘TTM-127’は草勢、収量とも中程度ながら青枯耐病性に優れ有望と思われた。 ・薪ストーブ燃焼により定植期の2ヶ月前進化及び収穫期の2ヶ月延長が可能で慣行作型の2倍近い高収量が得られた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望台木の現地適応性調査 ・‘りんか409’の施肥・かん水基準の策定 ・無加温作型延長技術の確立 	
夏ネギ前進作型の安定化と機械化対応育苗技術の確立		ほ場 18a	<ul style="list-style-type: none"> ・機械移植に対応した200穴セルトレイによる直置き育苗技術を確立する。 ・中山間地域の気象条件を活用した盆前出荷作型を中心とした体制強化を図る。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械移植により定植労力は慣行の1/5となったが、土壌水分が多い場合は移植精度が低下した。 ・盆前どり、9月どり、11月どりの各作型において標準品種の収量を上回る品種はなかった。 ・7月どり作型では定植後1ヵ月間の被覆処理により初期生育が旺盛となり、後半重点施肥により収穫前までの生育が良好となった。 ・1穴1粒まき越冬大苗育苗及び疎植により7月中旬収穫において未21比率90%以上の高品質な白 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植精度向上のための土壌水分基準の検討 ・7月どり作型の安定多収か技術の確立 ・萎凋病を始めとする難防除病害対策技術の確立 	
ブロッコリー作期拡大試験		ほ場 12a	<ul style="list-style-type: none"> ・初夏どりにおけるポトニング回避技術を確立する。 ・これまで栽培不可能とされていた7～9月どり作型について中山間地域での栽培限界を明らかにする。 ・以上により平坦地とのリレー出荷体系の強化と栽培面積拡大を図る。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗用土への肥料混和や定植後のトンネル被覆による収穫期前進効果が見られたが、基肥肥料の変更のみによる効果は判断しなかった。 ・6月上中旬どりでは4月5日定植の‘玉麟’及び4月21日定植の‘BL-453’、‘NBR-21’等が有望であった。 ・7月中下旬及び9月上中旬どりで小花黄化や腐敗の多発により有望品種の選定が出来なかった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被覆処理等を組み合わせた初夏どり作型の遅植え早どり技術の確立 ・高温期収穫作型の安定化 	
新規品目の検索と栽培法の確立		ハウス 1a ほ場 2a	<ul style="list-style-type: none"> ・早春から収穫可能で高収量が期待できるアスパラガス及びニラの栽培技術を確立する。 ・9～10月どりトルコギキョウの品質評価とともに適品種を選定する。 	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春期及び夏期の捨て刈り後の連続収穫では抽苔や低温の影響から2回連続収穫が限界と考えられた。 ・アスパラガスは秀品収量が多い‘ゼンユウガリバー’及び1本重が大きい‘ウエルカム’が有望であった。 ・7月上中旬定植のトルコギキョウは高需要期の9～10月に高品質の切り花生産が可能となったが、 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスパラガス収穫2年目以降の収量及び品質 ・トルコギキョウのは種別別適品種選定 	

○意見、要望等

- | | |
|--------------------|------|
| (1) 業務に関する意見・要望等 | 特になし |
| (2) 監査委員事務局に対する要望等 | 特になし |